

# Kansai Economic Insight Monthly

2024/10/23

Vol.138 September/October

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、豊原法彦(関西学院大学教授)、関和広(甲南大学教授)、野村亮輔(APIR 副主任研究員)、郭秋薇(APIR 研究員)、劉子瑩(APIR 研究員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、古山健大(APIR 研究推進部員)、宮本瑛(調査役/研究員)、新田洋介(調査役/研究員)、壁谷紗代(調査役/研究員)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
今月の総括判断	2
生産・労働関連	3
内需関連	6
景況感	11
外需関連	13
中国景気モニター	16
S-APIR 指数からみた日次景気動向	22
主要月次統計	23-24
Release Calendar	25

## 要旨

### 景気の現況は下げ止まり傾向、先行きは上方への局面変化： インバウンド需要は堅調も物価の高止まりがリスク要因

- ✓ 関西の景気は、現況は下げ止まり傾向にあり、先行きは上方への局面変化が見込まれる。関西の景気動向指数(現況判断CI)が3カ月連続で前月から改善したこともあり、基調判断を上方修正した。足下、生産は2カ月ぶりの減産。失業率は2カ月ぶりに改善し、就業率も上昇。雇用の回復は維持している。また、小売は百貨店、スーパーともに増加。一方、貿易黒字は縮小した。
- ✓ 景気の先行きについては上方への局面変化を見込んでいる。インバウンド需要は堅調に推移しているものの、物価の高止まりが景気回復のリスク要因となる。
- ✓ 8月の生産は金属製品、生産用機械や電気・情報通信機械等の落ち込みが影響し、前月の上昇分を相殺する減産となった。
- ✓ 8月の失業率は2カ月ぶりに改善し、また就業者数も増加した。就業率が上昇し、雇用回復の勢いが維持されている。なお、7-8月平均では新規求人数の増加がみられ、先行き労働需要の動向に注視を要する。
- ✓ 7月の現金給与総額は8カ月連続の前年比増加。夏季賞与の効果が剥落したため、伸びは前月より大幅縮小。結果、実質賃金は再び減少に転じた。
- ✓ 8月の大型小売店販売額は35カ月連続の前年比増加で、前月より幾分加速。百貨店はインバウンドによる高額品の売上が堅調だったことに加え、スーパーは防災・備蓄関連商品の好調もあり2カ月ぶりに増加に転じたため。
- ✓ 8月の新設住宅着工戸数は4カ月ぶりの前月比増加。ただし、7-8月平均は4-6月平均比大幅減少し、住宅市場は低迷している。
- ✓ 8月の建設工事出来高は5カ月連続の前年比増加。公共工事の伸びも堅調で、5カ月連続で全国の伸びを上回っている。また、9月の公共工事請負金額は2カ月連続で同増加した。
- ✓ 9月の景気ウォッチャー現状判断DIは2カ月連続で悪化。残暑や前月の自然災害で増加した備蓄需要の反動もあり、小売関連が悪化。先行き判断DIは物価やコスト上昇に対する警戒感が強いこともあり、4カ月ぶりに悪化した。
- ✓ 9月の貿易収支は黒字となったが、前年に比べて縮小。輸出は対米や対EUが低迷して同減少に転じた。一方輸入は、特に対EUが全体を押し上げたため、同増加した。
- ✓ 9月の関空経由の外国人入国者数は同月として過去最高値を更新。7-9月期では4四半期連続で200万人超の水準となり、入国者数は好調を維持している。
- ✓ 中国の7-9月期実質GDPは前年同期比+4.6%と2四半期連続で減速した。足下は生産と消費の回復は低調であり、景気の減速傾向が見られる。中国政府は、追加の金融緩和策と景気刺激策を実施する方針を示した。しかし、雇用回復の遅れや不動産市場の深刻な不況により、短期間での改善は難しい。そのため、10-12月期の景気については7-9月期より改善は見込みづらい。

### 【今月の総括判断】

関西の景気は、**現況は下げ止まり傾向にあり、先行きは上方への局面変化が見込まれる。**

**現況**については、**生産**は金属製品、生産用機械や電気・情報通信機械等の落ち込みが影響し、前月の上昇分を相殺する減産となった。失業率は2カ月ぶりに改善したことに加え、就業率が上昇しており、**雇用**の回復は維持している。百貨店は30カ月連続で、スーパーは2カ月ぶりにいずれも増加しており、**小売**は緩やかに持ち直している。**景況感**は残暑や前月の自然災害で増加した備蓄需要の反動もあり、2カ月連続で悪化した。輸出が前年比減少に転じ、輸入は同増加となった結果、**貿易黒字**は縮小した。**中国経済**は、7-9月期実質GDPが2四半期連続で減速。足下は生産と消費の回復は低調であり、景気の減速傾向が見られる。

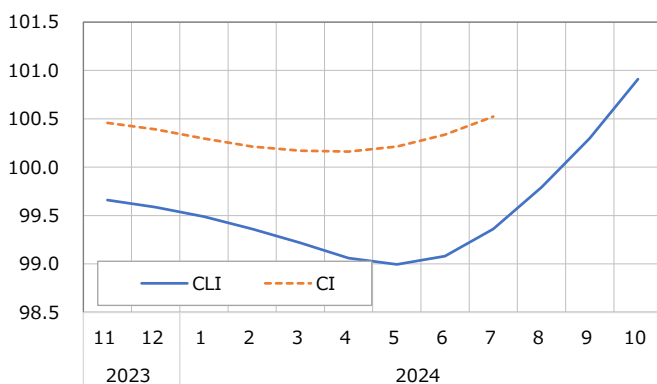
**先行き**については、インバウンド需要は堅調に推移しているものの、物価の高止まりが景気回復のリスク要因となろう。

### 【関西経済のトレンド及び判断基準】

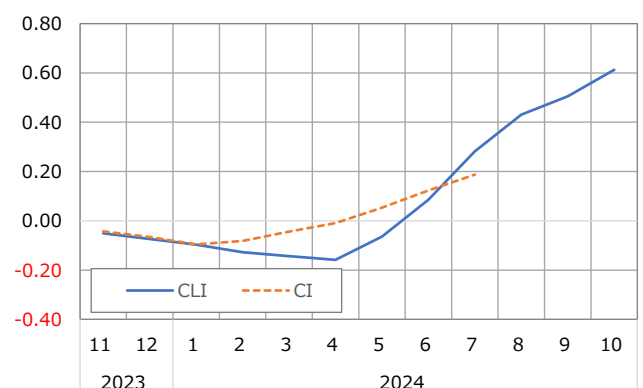
各項目	2023年			2024年									判断基準系列	上向き	下向き
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
生産	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↗	↘	NA	近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値) 前月比	+0.5%以上	-0.5%未満
雇用	→	↘	↘	→	→	↗	↘	↘	↘	↗	↘	NA	厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値) 前月差	0.01ポイント以上の改善	0.01ポイント以上の悪化
消費	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	NA	近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース) 前年同月比	1%以上増加	1%以上悪化
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗	→	→	→	→	NA	国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数 前年同月比	5%以上増加	5%以上悪化
公共工事	↘	↗	↗	↘	→	↘	↗	↗	↘	→	→	↗	西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額 前年同月比	5%以上増加	5%以上悪化
景況感	↘	↗	→	↘	↗	↘	↘	↘	↗	→	→	→	内閣府『景気ウォッチャー調査』近畿現状判断(方向性)DI 前月差	1ポイント以上の改善	1ポイント以上の悪化
消費者センチメント	→	→	→	→	↗	↗	↘	↘	→	→	→	→	内閣府『消費動向調査』の消費者態度指数(季節調整値) 前月差	1ポイント以上の改善	1ポイント以上の悪化
貿易	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	→	→	↘	→	↘	大阪税関『貿易統計』近畿圏貿易収支(入出超額) 前年同月差	500億円以上の改善	500億円以上の悪化
中国	↗	↗	↗	→	→	→	→	→	↘	→	↘	↘	各指標を用いて総合的に判断	-	-

### 【関西の景気動向指数(CI一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2023年11月~24年10月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2023年11月~24年10月)



(注) CLIの指数は2018年1月~24年7月までのデータで計算されている。

【生産・労働関連】

(1) 生産動向

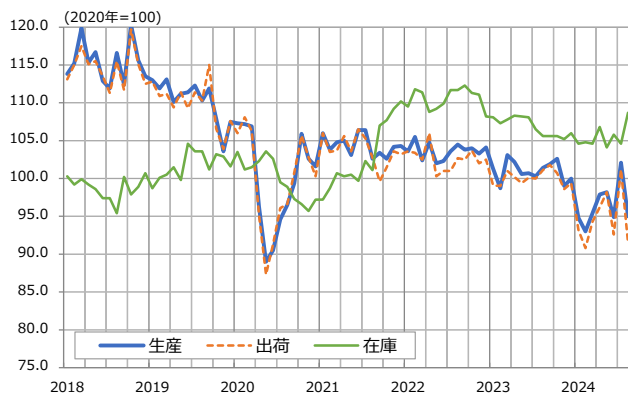
関西 8月の生産は金属製品、生産用機械や電気・情報通信機械等の落ち込みが影響し、2カ月ぶりの減産となった。

<関西>

関西 8月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2020年=100)を見ると、生産は95.0で前月比-7.0%と、前月(同+7.6%)の上昇分を相殺する2カ月ぶりの減産となった。ただし、7-8月平均の生産を4-6月平均と比較すると+1.6%上昇し、全国(-0.3%)を上回るペースとなっている(4-6月期：前期比+2.8%)。業種別にみれば、金属製品、生産用機械や電気・情報通信機械が減産となった一方、その他工業が増産となった。近畿経済産業局は8月の生産の基調判断を「底堅い動き」とし、前月から据え置いた。なお、今月発表分より2023年1月以降の値について年間補正が実施されている。

8月の出荷は91.5で、前月比-9.6%と2カ月ぶりの低下。一方、在庫は108.7で同+3.9%と2カ月ぶりに上昇した(前月：出荷：同+2.7%、在庫：同+0.4%)。

関西の鉱工業生産動向の推移(2017年1月~24年8月)



関西業種別生産の動向(2024年8月)

業種		前月比：%
増産	その他工業	+0.6 2カ月連続
	金属製品	-25.2 2カ月ぶり
減産	生産用機械	-13.5 2カ月ぶり
	電気・情報通信機械	-6.9 3カ月ぶり

(注) 福井県を含む。増産、減産は寄与度順に表記している。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

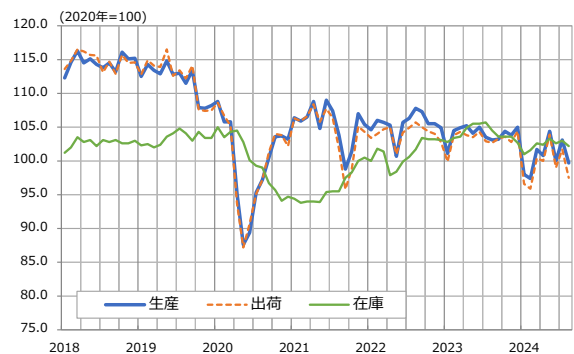
<全国>

全国 8月の鉱工業指数(確報：季節調整済、2020年=100)を見ると、生産は99.7であった。前月比-3.3%低下し、2カ月ぶりの減産となった(前月：同+3.1%)。7-8月平均を4-6月平均と比較すると-0.3%低下した(4-6月期：前期比+2.7%)。業種別にみれば、自動車、電気・情報通信機械、や生産用機械等が減産となった一方、輸送機械(除、自動車)、化学(除、無機・有機化学)や電子部品・デバイス工業等が増産となった。自動車については8月の台風により一部工場が停止した影響が表れたようである。経済産業省は8月の生産(速報ベース)の基調判断を「一進一退」と前月から据え置いた。

8月の出荷は97.5で前月比-4.1%と、在庫は102.2で同-0.8%とそれぞれ2カ月ぶりに低下した(前月：出荷：同+2.7%、在庫：同+0.4%)。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、9月は前月比+2.0%(補正值：同+0.3%)、10月は同+6.1%といずれも増産が予測されている。自動車の挽回生産が見込まれている一方で、電子部品・デバイスの減産が予定されていることもあり、生産は一進一退で推移する可能性が高い。

全国の鉱工業指数の推移(2017年1月~24年8月)



全国業種別生産の動向(2024年8月)

業種		前月比：%
増産	輸送機械(除、自動車)	+5.9 2カ月連続
	化学(除、無機・有機化学)	+1.9 2カ月連続
	電子部品・デバイス	+1.9 2カ月連続
減産	自動車	-10.7 2カ月ぶり
	電気・情報通信機械	-6.2 2カ月ぶり
	生産用機械	-4.6 2カ月ぶり

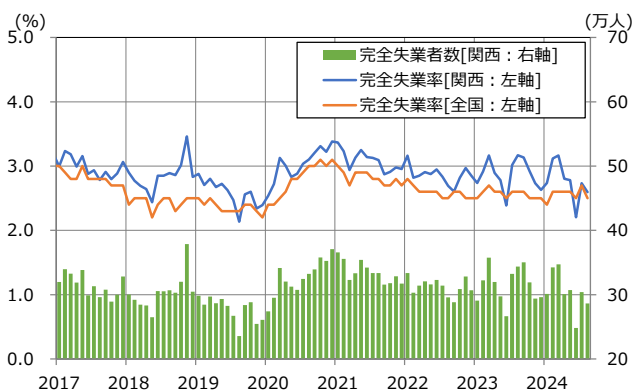
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(2) 完全失業者数と就業者数

<関西>

関西8月の完全失業率は2.6%と前月差-0.1%ポイント低下し、2カ月ぶりに改善した(以下の関西の数値はAPIRによる季節調整値)。完全失業者数は29万人で同-2万人と2カ月ぶりに減少した。就業者数は1,084万人で同+1万人と2カ月連続で増加し(前月:同+6万人)、労働力人口は1,113万人で同-0万人とほぼ横ばいとなった(前月:同+8万人)。非労働力人口は675万人で同-2万人と2カ月連続で減少した(前月:同-8万人)。

完全失業率の推移(2017年1月~24年8月)



(出所) 総務省「労働力調査」

失業率が前月より小幅に改善したことに加え、就業者数も幾分増加した。また、15歳以上人口に占める就業者の割合を示す就業率は前月差+0.1%ポイントの60.6%と2カ月連続で上昇した(前月:同+0.4%ポイント)。

7-8月平均を4-6月平均と比較すると、完全失業率(2.7%)はわずかに上昇したが(4-6月期:2.6%)、就業者数と労働力人口はそれぞれ9万人と8万人増加した(4-6月期:就業者数:前期差+9万人、労働力人口:同+7万人)。雇用回復の勢いを維持している。

<全国>

全国8月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.5%と前月差-0.2%ポイント低下し、2カ月ぶりに改善した。完全失業者数は172万人で同-15万人と2カ月ぶりに減少した。就

業者数は6,791万人で同+25万人、労働力人口は6,961万人で同+7万人、いずれも2カ月ぶりに増加した。非労働力人口は4,021万人で同-11万人と2カ月ぶりに減少した。

失業率の低下に加えて、就業者数と労働力人口が増加した。また、就業率は前月差+0.3%ポイントと2カ月ぶりに上昇した。なお、7-8月平均を4-6月平均と比べると、完全失業率は微増したが、労働力人口と就業者数は増加した。雇用情勢は持ち直している。

(3) 求人倍率

<関西>

関西8月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.12倍で前月差-0.01ポイントと2カ月ぶりの低下となった。有効求人数は前月比-0.4%と2カ月ぶり、有効求職者数は同-0.2%と2カ月連続で、それぞれ減少した。前者の減少幅が後者のそれを上回ったため、倍率が小幅低下した。

府県別で見ると、大阪府を除き、全ての府県で上昇した。

全国と関西の有効求人倍率の比較

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.24	1.13	0.98	1.20	1.18	1.01	1.11	1.13
8月	1.23	1.12	1.00	1.21	1.17	1.02	1.14	1.14
前月差	▲ 0.01	▲ 0.01	0.02	0.01	▲ 0.01	0.01	0.03	0.01

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

新規求人倍率を見ると、関西8月は2.23倍で前月差-0.05ポイントと3カ月ぶりの低下となった。新規求人数は前月比-1.4%と2カ月ぶりに減少した一方、新規求職者数は同+0.7%と3カ月ぶりに増加したためである。

8月の新規求人数を産業別にみれば(原数値)、全ての産業で減少した。建設業(前年同月比-14.0%)と製造業(同-9.0%)の他に、卸売業・小売業(同-8.0%)や宿泊業・飲食サービス業(同-25.1%)などサービス業も減少が続いている。また、多くの産業で減少幅が拡大した。

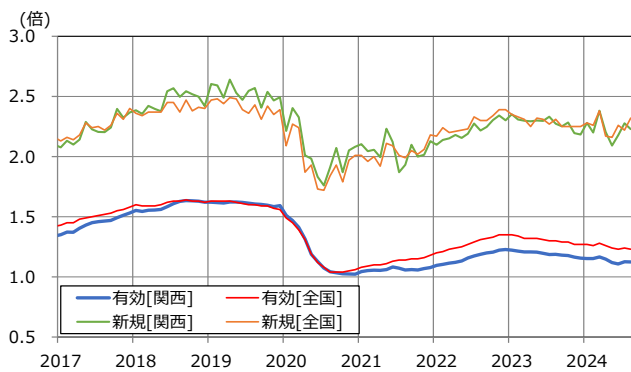
2023年以降、求人数の減少傾向と求職者数の緩やかな増加傾向が続いている。7月には一時的に新規求人数が増加し、新規求職者数が減少するという逆の動きとなったが、8月に

は再び前者の減少と後者の増加がみられた。ただし、7-8月平均を4-6月平均と比較すると、新規求人数が増加し、新規求職者数は減少している。今後も23年以来の傾向に変化が生じたかどうか、引き続き注視する必要がある。

<全国>

全国8月の有効求人倍率(季節調整値)は1.23倍で前月差-0.01ポイントと2カ月ぶりに低下した一方、新規求人倍率は2.32倍で同+0.10ポイントと2カ月ぶりに上昇した。

求人倍率(受理地別)の推移(2017年1月~24年8月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

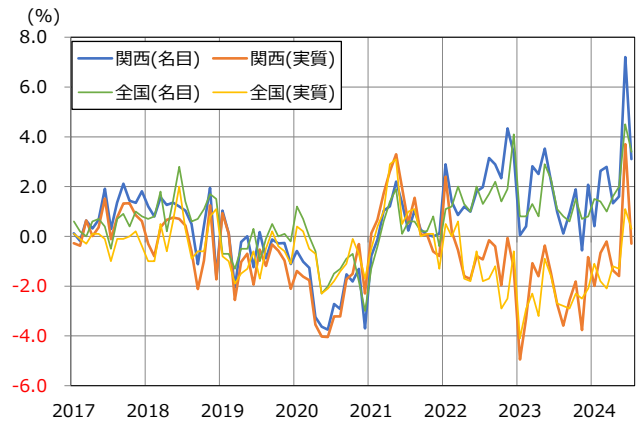
7-8月平均を4-6月平均と比較すると、全国の新規求人数は減少が続いており、関西と比べて労働需要の先行きは低調である。

(4) 現金給与総額

<関西>

関西2府4県の7月の現金給与総額(APIR推計)は38万9,005円で前年同月比+3.1%と8カ月連続で増加した。夏季賞与の大幅増加による影響を受けた前月(同+7.2%)と比べて、伸びは縮小したものの、依然として3%台という高水準を維持している。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2017年1月~24年7月)



(注) 関西はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2022年平均)で加重平均。また、実質賃金は現金給与総額を「持家の所属家賃を除く消費者物価指数」で除して計算している。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

なお、現金給与総額の動向を府県別でみると、兵庫県を除き、すべての府県で増加した。うち、京都府と和歌山県の伸びは5%以上に達している。

全国と関西の現金給与総額の前年同月比(%)

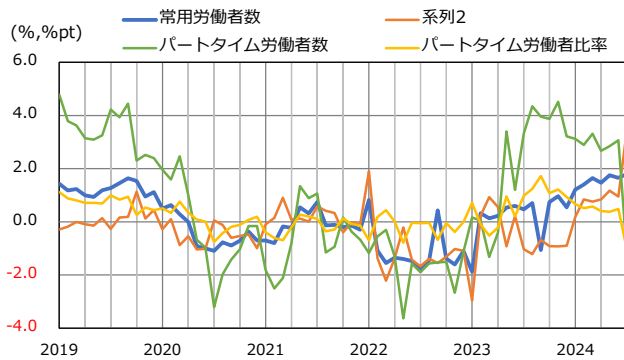
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	+4.5	+7.2	-1.1	+1.2	+5.8	+3.3	+9.5	+4.8
7月	+3.4	+3.1	+1.8	+5.0	+3.5	-3.2	+0.3	+6.4
前年比	31カ月連続増	8カ月連続増	2カ月ぶり増	2カ月連続増	11カ月連続増	2カ月ぶり減	3カ月連続増	2カ月連続増

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

また、関西2府4県の物価変動の影響を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は、前年同月比-0.3%と2カ月ぶりに減少した(前月:同+3.7%)。物価上昇率は+3.4%と前月よりわずかに低下したが、名目賃金の伸び(同+3.1%)がそれを下回ったためである。夏季賞与による賃上げ効果の剥落で実質賃金が再び減少に転じた。

なお、7月の関西2府4県の常用労働者数は前年同月比+1.8%と10カ月連続の増加となった。うち、一般労働者数は同+3.5%と7カ月連続で増加した一方、パートタイム労働者数は同-1.2%と15カ月ぶりに減少した。なお、パートタイム労働者比率は34.44%で前年同月から-1.05%ポイントと15カ月ぶりに低下した。

関西の常用労働者の動態(前年同月比: 2019年1月~24年7月)



(出所) 関西2府4県の自治体の公表資料より作成

### <全国>

全国8月の現金給与総額(速報値)は、前年同月比+3.0%と32カ月連続の増加となり、伸びは前月(同+3.4%)から幾分縮小した。所定内給与は同+3.0%と34カ月連続の増加。所定外給与は同+2.6%と2カ月ぶりの増加。特別に支払われた給与は同+2.7%と5カ月連続の増加となった。また、現金給与総額を消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)で除した実質現金給与総額(実質賃金)は同-0.6%と3カ月ぶりにマイナスに転じた。

所定内給与の伸び率は3%台になり、1992年10月以来の高い水準を記録した。春闘における賃金交渉の結果が反映されている。しかし、夏季賞与の効果が剥落したことで、名目賃金の増加ペースが鈍化し、その伸び率は依然として高止まっている物価上昇率(前年同月比+3.5%)を下回った。その結果、実質賃金が再び低下した。

なお、10月1日から各都道府県で順次、最低賃金の引き上げが開始される。人手不足を背景に、働き手の確保を目的として、中央最低賃金審議会が示した引き上げ額の目安を上回る県が半数以上にのぼっている。これらが実質賃金の先行きに押し上げ圧力をかける一要因となるだろう。

### 【内需関連】

#### (1) 大型小売店販売額

##### <関西>

関西8月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベ

ース)は3,401億円前で前年同月比+5.2%と35カ月連続の増加となった(前月:同+3.4%)。関西は堅調なインバウンド消費により、全国より引き続き高い伸び率を示した。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2017年1月~24年8月)



(注) 福井県を含む。

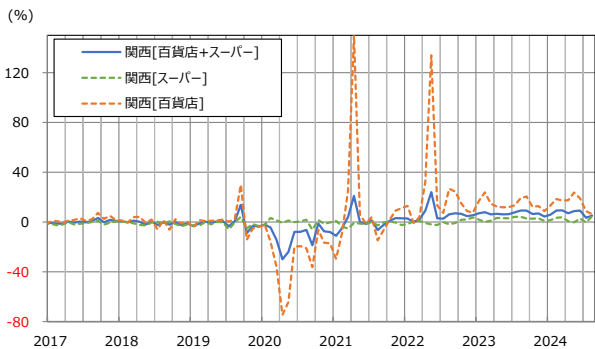
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比+6.4%と30カ月連続のプラス(前月:同+8.8%)。商品別にみれば、身の回り品(同+12.5%、35カ月連続)やその他商品(同+10.5%、29カ月連続)、家具・家電・家庭用品(同+8.2%、4カ月連続)、衣料品(同+4.3%、30カ月連続)、飲食料品(同+1.5%、2カ月ぶり)と、すべての商品で前年を上回った。7月から円高傾向(7月平均:158.1円→8月平均:146.2円)となったものの、引き続きインバウンド需要は堅調で、ラグジュアリーブランドを中心とする高額品や化粧品が好調だった。日本銀行大阪支店によると、百貨店免税売上高指数(2013年4月=100)は2,009.0であり、前年同月比+46.2%と39カ月連続で増加した。百貨店売上の伸び率に対する免税および国内売上の寄与度をみれば、2023年10月以降、免税売上が国内売上を上回っている。

スーパーは前年同月比+4.6%と2カ月ぶりの増加(前月:同-0.3%)。商品別にみると、家具・家電・家庭用品(同+6.6%、4カ月ぶり)、その他商品(同+6.3%、8カ月連続)、飲食料品(同+4.8%、18カ月連続)は前年を上回った。なお、飲食料品については、自然災害への備えとして、防災・備蓄関連商品の好調が売上増加の要因の一つと考えられる。一方、衣料品(同-4.3%、6カ月連続)、身の回り品(同-3.5%、2カ月

連続)、が前年を下回った。

業態別大型小売店販売額の推移(前年同月比:2017年1月~24年8月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 経済産業省「商業動向統計」

### <全国>

全国8月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆8,691億円で、前年同月比+4.7%と35カ月連続の増加となった(前月:同+1.3%)。うち、百貨店は同+3.4%(前月:同+5.1%)と30カ月連続の増加。また、スーパーは同+5.0%と2カ月ぶりに増加した(前月:同-0.1%)。

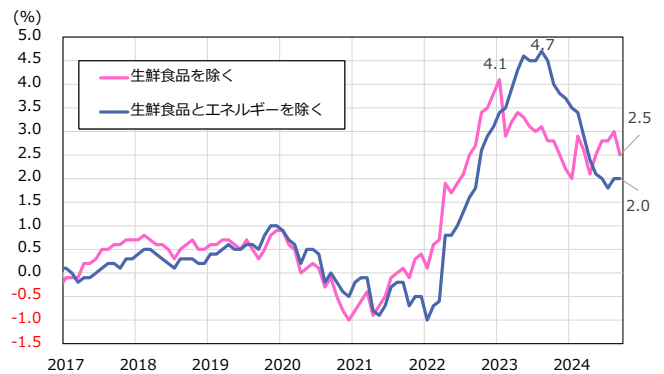
小売業販売額(季節調整済指数)は、前月比+0.8%と5カ月連続で増加した(前月:同+0.2%)。また、前月比の3カ月後方移動平均は+0.5%となり、経済産業省は小売業の基調判断を「上昇傾向にある」と前月から据え置いた。

## (2) 消費者物価指数

### <関西>

関西9月の消費者物価総合指数(2020年平均=100)は108.7で、前年同月比+2.7%と35カ月連続の上昇となった(前月:同+3.3%)。また、生鮮食品を除くコア指数は107.9で同+2.5%と35カ月連続で上昇(前月:同+3.0%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は107.8で同+2.0%と30カ月連続で上昇した(前月:同+2.0%)。インフレ率をみれば、総合指数、コア指数はいずれも2カ月ぶりに縮小、コアコア指数は横ばいとなった。

関西消費者物価指数(前年同月比:2017年1月~24年9月)



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

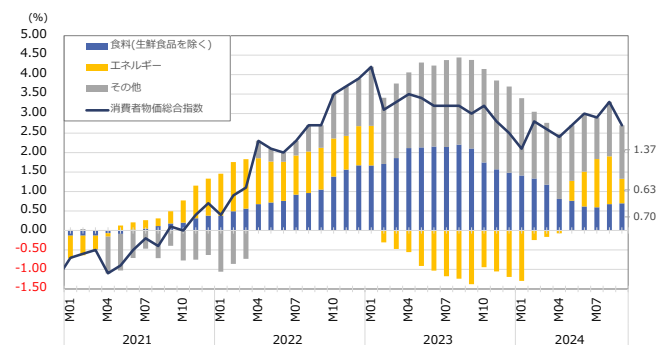
総合指数の主な項目をみると、エネルギーは前年同月比+9.5%と5カ月連続で上昇した(前月:同+18.2%)。寄与度は+0.63%ポイント(前月:+1.23%ポイント)。うち、電気代は同+21.3%と5カ月連続で上昇した(前月:同+37.2%)。寄与度は+0.56%ポイント(前月:+1.00%ポイント)。ガス代は同+8.2%と4カ月連続で上昇となった(前月:同+13.3%)。寄与度は+0.12%ポイント(前月:+0.20%ポイント)。一方、生鮮食品を除く食料は同+2.9%と21年7月以来、上昇が続いており、インフレ率は2カ月連続で加速した(前月:同+2.8%)。寄与度は+0.70%ポイント(前月:+0.68%ポイント)。

関西消費者物価指数の主な項目(前年同月比:%)

	総合	コア	コアコア	食料 (生鮮食品を除く)	エネルギー
全国のウエイト	10,000	9,604	8,892	2,230	712
8月	3.3	3.0	2.0	2.8	18.2
9月	2.7	2.5	2.0	2.9	9.5
	35カ月連続上昇	35カ月連続上昇	30カ月連続上昇	39カ月連続上昇	5カ月連続上昇

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

関西消費者物価総合指数の寄与度分解(2021年1月~24年9月)



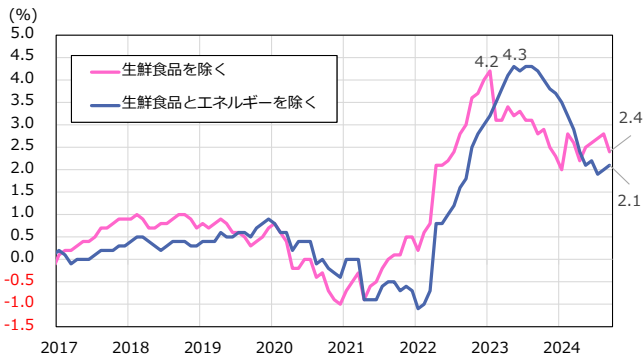
(注) 寄与度は全国のウエイトを用いて推計

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

<全国>

全国 9 月の消費者物価総合指数(2020 年平均=100)は 108.9 で、前年同月比+2.5%と 21 年 9 月以降、上昇が続いている(前月：同+3.0%)。生鮮食品を除くコア指数は 108.2 で同+2.4%と 21 年 9 月以降、上昇が続いている(前月：同+2.8%)。生鮮食品及びエネルギーを除くコアコア指数は 107.5 で同+2.1%と 30 カ月連続で上昇した(前月：同+2.0%)。インフレ率は、総合指数は 4 カ月ぶり、コア指数は 5 カ月ぶりに減速し、コアコア指数は 2 カ月連続で加速した。

全国消費者物価指数 (前年同月比：2017 年 1 月～24 年 9 月)



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

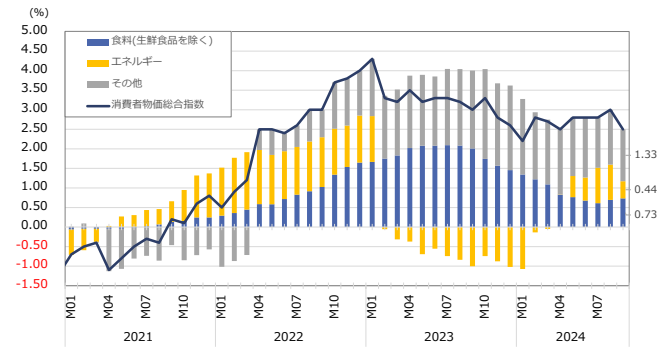
9 月の総合指数の主な項目をみると、エネルギーは前年同月比+6.0%と 6 カ月連続で上昇(前月：同+12.0%)。寄与度は+0.44%ポイント(前月：+0.90%ポイント)。うち、電気代は同+15.2%と 5 カ月連続で上昇(前月：同+26.2%)。寄与度は+0.46%ポイント(前月：+0.82%ポイント)。ガス代は同+7.7%と 4 カ月連続の上昇となった(前月：同+11.1%)。寄与度は+0.12%ポイント(前月：+0.17%ポイント)。生鮮食品を除く食料は同+3.1%と 21 年 7 月以降、上昇が続いている(前月：同+2.9%)。寄与度は+0.73%ポイントとなった(前月：+0.69%ポイント)。なお、米類は 1975 年 9 月以来、49 年ぶりの上昇率を記録し、前年同月比+44.7%と 22 カ月連続で上昇となった(前月：同+28.3%)。寄与度は+0.25%ポイント(前月：+0.16%ポイント)。

全国消費者物価指数の主な項目 (前年同月比：%)

	総合	コア	コアコア	食料 (生鮮食品を除く)	エネルギー
全国のウエイト	10,000	9,604	8,892	2,230	712
8月	3.0	2.8	2.0	2.9	12.0
9月	2.5	2.4	2.1	3.1	6.0
	37カ月連続上昇	37カ月連続上昇	30カ月連続上昇	39カ月連続上昇	6カ月連続上昇

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

全国消費者物価総合指数の寄与度分解 (2021 年 1 月～24 年 9 月)



(注) 寄与度は全国のウエイトより推計

(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」

財・サービス分類で見れば、財は前年同月比+3.5%と 21 年 5 月以降、上昇が続いている。寄与度は+1.86%ポイントとなった(前月：+2.35%ポイント)。サービスは同+1.3%と 26 カ月連続で上昇した(前月：同+1.4%)。寄与度は+0.63%ポイントとなった(前月：+0.68%ポイント)。うち、宿泊料は同+6.8%と 18 カ月連続で上昇した。寄与度は+0.07%ポイント(前月：+0.11%ポイント)。外国パック旅行費は同+65.3%と 9 カ月連続で上昇した(前月：同+59.4%)。寄与度は+0.15%ポイントとなった(前月：+0.17%ポイント)。

関西・全国の 9 月の消費者物価コア指数の伸び率はともに前月から縮小した。コメの大幅値上げやカカオ豆の価格上昇でチョコレート等の菓子類の値上げがみられる一方、電気・ガス代の補助再開の効果が消費者物価コア指数の上昇率縮小に影響した。

8 月からの「酷暑乗り切り緊急支援」で 9~11 月請求分の電気・都市ガス代が軽減されることから、今後 2 カ月の電気・都市ガス代は押し下げられる見込みである。ただし、支援策終了後の 12 月請求分(11 月使用分)では再び高い伸びが予想される。



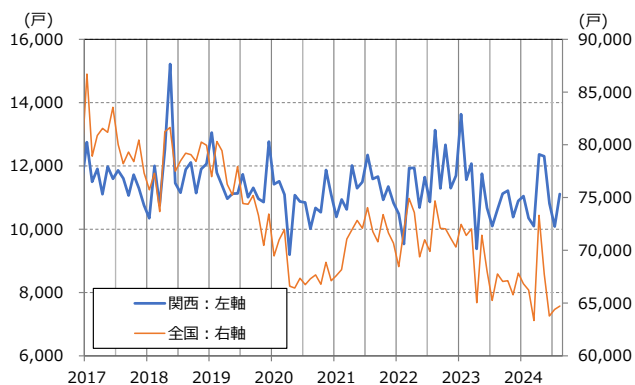
### (3) 新設住宅着工

関西・全国の8月の新設住宅着工戸数(季節調整値)はともに前月比増加した。うち、関西では持家、貸家が減少したものの、分譲が増加、特にマンションの大幅増加が影響した。しかし7-8月平均は4-6月期と比べ、関西、全国いずれも減少しており、着工戸数は低迷している。

#### <関西>

関西8月の新設住宅着工戸数(原数値)は1万770戸となり、前年同月比+4.5%と2カ月ぶりに増加した(前月:同-0.1%)。季節調整値(APIR推計)は1万1,109戸(年率換算値:13万3,306戸)で、前月比+10.2%と4カ月ぶりの増加となった(前月:同-6.7%)。なお、7-8月平均を4-6月平均と比較すると、-10.4%減少した(4-6月期:前期比+12.7%)。

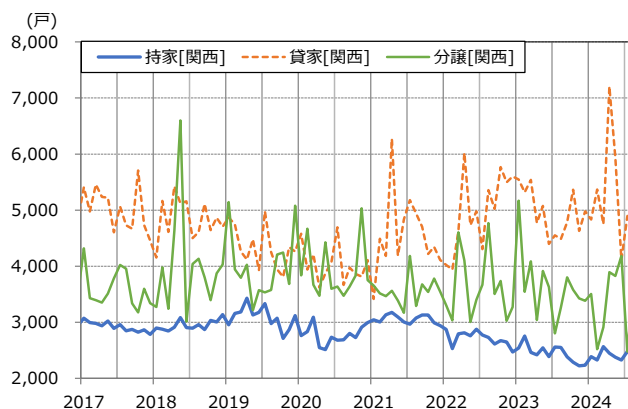
新設住宅着工戸数の推移(季節調整値、2017年1月~24年8月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別(季節調整値)で見ると、分譲は3,672戸で同+48.3%と2カ月ぶりの増加となった。うち、マンションは2,331戸で同+116.4%と2カ月ぶりに大幅増加した。一方、持家は2,449戸で前月比-1.2%と2カ月ぶりに減少。貸家は4,854戸で同-0.9%と2カ月ぶりに減少した。

利用関係別の推移(季節調整値、2017年1月~24年8月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

#### <全国>

全国8月の新設住宅着工戸数(原数値)は6万6,819戸となり、前年同月比-5.1%と4カ月連続の減少となった(前月:同-0.2%)。季節調整値は6万4,717戸(年率換算値:77万6,604戸)で、前月比+0.5%と2カ月連続の増加となった(前月:同+1.0%)。なお、7-8月平均を4-6月平均と比較すると、-5.4%減少した(4-6月期:前期比+4.3%)。

利用関係別(季節調整値)で見ると、持家が1万8,847戸で前月比+6.6%と2カ月ぶりに増加。分譲は1万7,417戸で同+3.9%と3カ月ぶりに増加した。一方、貸家は2万7,410戸で同-7.1%と2カ月ぶりに減少した。

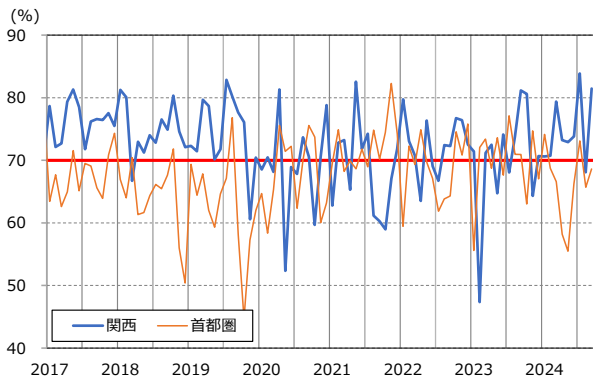
### (4) マンション市場動向

#### <関西>

関西9月の新築分譲マンション契約率(売却戸数/発売戸数)は81.5%(季節調整値:APIR推計)で、前月差+13.4%ポイント上昇した(前月:同-15.8%ポイント)。2カ月ぶりの上昇となり、好不況の境目である70%を2カ月ぶりに上回った。契約率を府県別に見ると(原数値)、大阪市部(91.9%)、滋賀県(90.4%)、兵庫県下(86.4%)等は高水準となったが、大阪府下(43.8%)は低水準となった。

新規発売戸数(原数値)をみると、1,280戸となり、前年同月比-8.1%と2カ月連続の減少となった(前月:同-28.0%)。

新築分譲マンション契約率の推移(2017年1月~24年9月)



(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

#### <首都圏>

首都圏9月の新築分譲マンション契約率は68.6%(季節調整値:APIR 推計)で、前月差+2.9%ポイント上昇した(前月:同-7.4%ポイント)。2カ月ぶりの上昇となるが、好不況の境目である70%を2カ月連続で下回った。

新規発売戸数(原数値)は1,830戸で前年同月比-13.7%と6カ月連続の減少となった(前月:同-50.4%)。

#### (5) 建設工事

関西8月の建設工事は5カ月連続、全国は4カ月連続の前年比増加となった。関西では好調な民間工事に加え、公共工事は5カ月連続で前年を上回っている。

#### <関西>

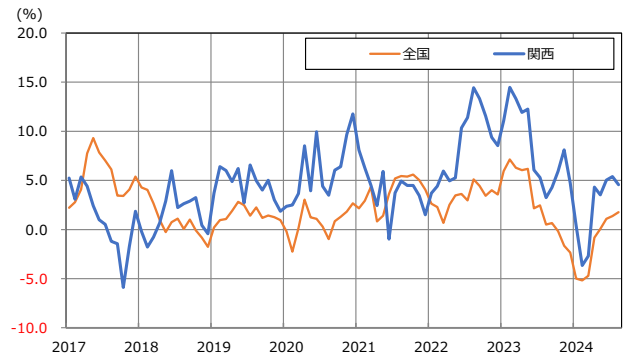
関西8月の建設工事(出来高ベース)は7,151億円で前年同月比+4.6%と5カ月連続で増加した(前月:同+5.4%)。うち、民間工事(建設工事-公共工事)は4,668億円となり、同+2.4%と29カ月連続の増加となった(前月:同+2.2%)。一方、公共工事は2,484億円となり、同+8.9%と5カ月連続で増加したが、増加幅は縮小した(前月:同+11.9%)。

#### <全国>

全国8月の建設工事(出来高ベース)は4兆8,702億円で前年同月比+1.8%と4カ月連続の小幅増加(前月:同+1.4%)。うち、民間工事は2兆9,224億円となり、同+0.9%と13カ月ぶりの増加(前月:同-0.1%)。一方、公共

工事は1兆9,478億円となり、同+3.2%と5カ月連続の増加となった(前月:同+3.9%)。

建設工事出来高の推移(前年同月比:2017年1月~24年8月)



(注) 2024年4月分の公表時点で遡及改定された値を反映している

(出所) 国土交通省「建設総統計」

公共工事出来高の推移(前年同月比:2017年1月~24年8月)



(注) 24年3月以前の地域別の推移は、5月分公表時に再推計された遡及改定値、4月以降は最新の公表表から作成。

(出所) 国土交通省「建設総統計」

#### (6) 公共工事請負金額

9月の公共工事請負金額は、関西は2カ月連続の前年同月比増加となった一方、全国は2カ月連続の同減少となった。

7-9月期をみれば、関西は2四半期ぶりに、全国は2四半期連続でそれぞれ減少した。

#### <関西>

関西9月の公共工事請負金額は1,588億円で前年同月比+5.9%と2カ月連続の増加となった(前月:同+3.5%)。

9月の前年同月比(+5.9%)への寄与度を発注者別にみれば、その他(+5.8%ポイント)、国(+5.3%ポイント)、独立行政法人等(+3.0%ポイント)が増加に寄与した。一方、市区

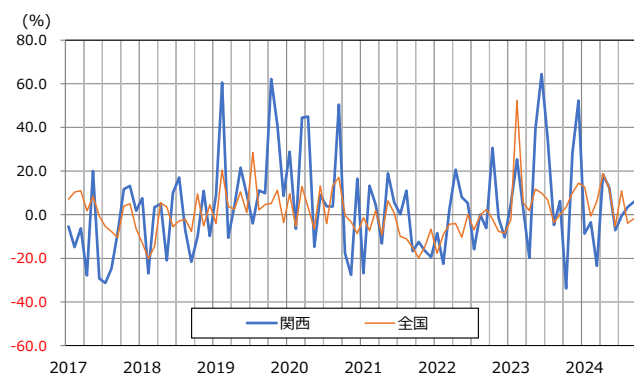
町村(-7.5%ポイント)、都道府県(-0.7%ポイント)、地方公社(-0.1%ポイント)が減少に寄与した。

季節調整値(以下、APIR 推計)では、前月比+3.3%と4カ月ぶりのプラス(前月:同-11.1%)。結果、7-9月期は、前期比-22.2%減少した。2四半期ぶりのマイナス(4-6月期:同+52.2%)。

#### <全国>

全国9月の公共工事請負金額は1兆2,752億円、前年同月比-1.9%と2カ月連続の減少(前月:同-3.9%)。季節調整値では前月比+5.1%と2カ月ぶりの増加となった(前月:同-17.4%)。結果、7-9月期は、前期比-11.4%減少した。2四半期連続のマイナス(4-6月期:同-3.7%)。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2017年1月~24年9月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

### 【景況感】

#### (1) 消費者態度指数

9月の消費者態度指数は、関西、全国ともに2カ月ぶりの上昇。7-9月期で見れば、関西、全国いずれも2四半期連続の低下で、関西は全国に比して低下幅は大きい。

#### <関西>

関西9月の消費者態度指数(季節調整値: APIR 推計)は36.1であった(調査期間: 9月6~20日)。前月差+0.6ポイントと、2カ月ぶりに上昇した(前月:同-0.9ポイント)。7-9月期は前期差-1.4ポイントと2四半期連続で低下した(4-

6月期:同-1.1ポイント)。関西の低下幅は後述する全国に比して大きい。

指数構成項目をみれば、収入の増え方指数は39.6で前月差+1.1ポイントと3カ月ぶりに、耐久消費財の買い時判断指数は31.1で同+0.3ポイントと2カ月連続でいずれも上昇。一方、雇用環境指数は40.7で同-0.6ポイントと2カ月連続で、暮らし向き指数は33.3で同-0.5ポイントと3カ月連続でそれぞれ低下した。

消費者態度指数の推移(2017年1月~24年9月)



(出所)内閣府「消費動向調査」

#### <全国>

全国9月(季節調整値)は36.9で、前月差+0.2ポイントと2カ月ぶりに上昇した(前月:同0.0ポイント)。7-9月期では、前期差-0.2ポイントと2四半期連続で低下した(4-6月期:同-1.9ポイント)。内閣府は9月の基調判断を「改善に足踏みがみられる」と前月から据え置いた。

指数構成項目をみると、雇用環境指数は42.2で前月差+0.8ポイントと2カ月ぶり、収入の増え方指数は40.1で同+0.4ポイントと3カ月ぶりに、耐久消費財の買い時判断指数は31.0で同+0.1ポイントと4カ月連続でそれぞれ上昇した。一方で、暮らし向き指数は34.4で同-0.3ポイントと3カ月ぶりに低下した。

#### (2) 景気ウォッチャー指数の動向

景気ウォッチャー調査によれば、9月の現状判断DIは、関西は2カ月連続で、全国は4カ月ぶりにそれぞれ悪化。残暑や前月の自然災害で増加した備蓄用品の買い控えの反動

が悪影響した。先行き判断 DI は物価やコスト上昇に対する警戒感が強いこともあり、関西、全国とも4カ月ぶりに悪化した。

#### <関西>

関西9月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値、調査期間：9月25日～30日)は46.7であった。前月差-0.7ポイントと2カ月連続で低下した(前月：同-0.3ポイント)。また、景気判断の分岐点である「50」を6カ月連続で下回った。残暑で秋物商材の売れ行きが悪かったことに加え、前月の自然災害で増加した備蓄需要の反動もあり、小売関連を中心に悪化した。

また、先行き判断 DI(季節調整値)は49.3となった。前月差-0.4ポイントと4カ月ぶりに低下し(前月：同+1.2ポイント)、景気判断の分岐点である「50」を7カ月連続で下回った。物価やコスト上昇に対する見方が強いことから景況感は悪化した。

7-9月期の現状判断 DI は前期差+0.1ポイント小幅上昇し、5四半期ぶりに改善(4-6月期：同-4.2ポイント)。また、先行き判断 DI は同+2.4ポイント上昇し、2四半期ぶりの改善となった(4-6月期：同-5.3ポイント)。

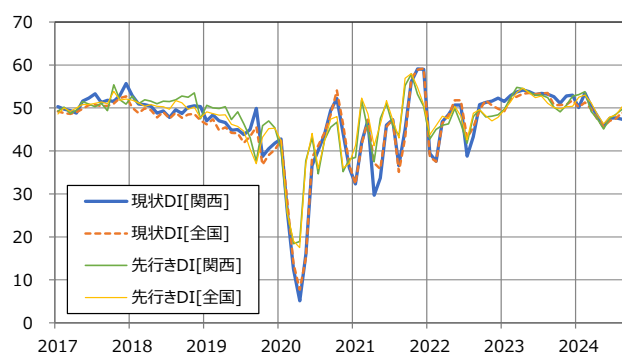
#### <全国>

全国の現状判断 DI(季節調整値)は47.8であった。前月差-1.2ポイントと4カ月ぶりに低下し(前月：同+1.5ポイント)、景気判断の分岐点である「50」を7カ月連続で下回った。

先行き判断 DI(季節調整値)は49.7となった。前月差-0.6ポイントと4カ月ぶりに低下し(前月：同+2.0ポイント)、景気判断の分岐点である「50」を2カ月ぶりに下回った。

内閣府は全国9月の調査結果を受けて、景気の現状判断を「緩やかな回復基調が続いている」とし、先行きは「価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている」と前月から据え置いた。

景気ウォッチャー調査の推移(2017年1月～24年9月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

### (3) 全国企業短期経済観測調査：9月調査

7-9月期の関西の業況判断 DI(全規模・全産業)は6月調査から横ばい。うち、製造業は3四半期ぶりに、非製造業は2四半期連続で改善した。

#### <関西>

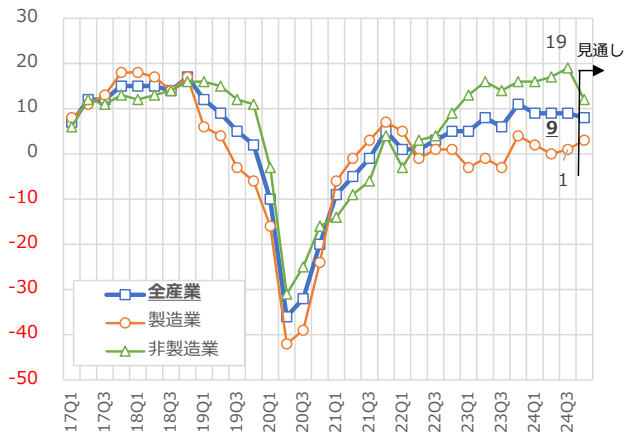
日本銀行大阪支店が10月に発表した9月の「企業短期経済観測調査(近畿地区)」によれば、業況判断 DI(全規模・全産業)はプラス9となり6月調査から横ばいとなった。

業種別に DI を見れば、製造業ではプラス1と、6月調査から+1ポイント上昇し、3四半期ぶりの改善。うち、非鉄金属(プラス10)は+19ポイント、電気機械(プラス11)は+19ポイントと、それぞれ6月調査から大幅改善した。

非製造業はプラス19と6月調査から+2ポイント上昇し、2四半期連続の改善となった。うち、建設(プラス25)は同+10ポイント、物品賃貸(プラス35)は同+7ポイント、宿泊・飲食サービス業(プラス10)は同+6ポイントと、それぞれ上昇した。

先行きについては、製造業はプラス3で9月調査より+2ポイントと2四半期連続の改善が見込まれている。一方、非製造業はプラス12で同-7ポイントと3四半期ぶりの悪化が見込まれている。

関西の業況判断指数(DI) : 2017年3月~24年9月



(注) 全産業、製造業、非製造業はいずれも全規模ベース。

(出所) 日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」より作成

### <全国>

全国の業況判断DI(全規模・全産業)はプラス14と、6月調査から+2ポイント上昇し、3四半期ぶりに改善した。うち、製造業はプラス5と、同横ばい。非製造業はプラス20で同+1ポイント上昇し、2四半期連続で改善した。

### 【外需関連】

9月の貿易収支は黒字となったが、前年に比べて縮小。輸出は対米や対EUが低迷して同減少に転じた。一方輸入は、特に対EUが全体を押し上げたため、同増加した。

#### (1) 輸出

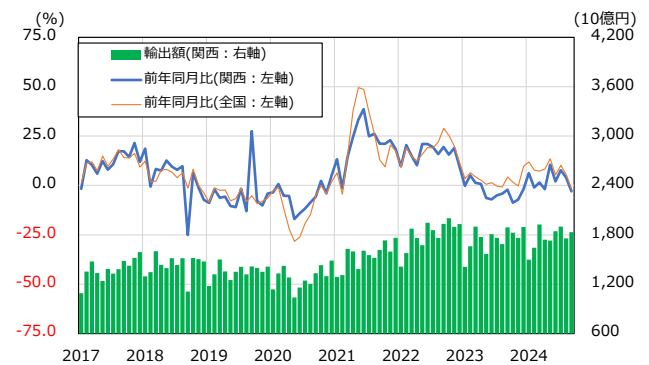
##### <関西>

財務省「貿易概況(速報)」、大阪税関「近畿圏貿易概況・速報」によれば、関西9月の輸出額は1兆8,336億円で、前年同月比-3.0%と5カ月ぶりに減少に転じた(前月:同+4.0%)。財別にみれば、主に建設用・鉱山用機械、鉱物性燃料等が減少に寄与した。結果、7-9月期は前年同期比+2.7%と3四半期連続の増加だが、低調な結果となった(前期:同+3.2%)。

##### <全国>

全国9月の輸出額は9兆382億円で前年同月比-1.7%と、10カ月ぶりの減少(前月:同+5.5%)。財別にみれば、主に自動車、鉱物性燃料、建設用・鉱山用機械等が減少に寄与した。結果、7-9月期は前年同期比+4.5%と15四半期連続の増加だが、前期(同+8.8%)から減速した。

関西・全国の輸出の推移(2017年1月~24年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

なお、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西9月の実質輸出(速報、季節調整値、2020年平均=100)は106.9で前月比+1.0%と5カ月連続の上昇(前月:同+2.5%)。全国9月の実質輸出は119.1で同+4.0%と4カ月連続で上昇した(前月:同+1.3%)。

結果、7-9月期を前期と比較すると、関西は+5.5%の上昇で、7四半期ぶりにプラスとなった(4-6月期:前期比-0.6%)。一方、全国は同+4.0%と2四半期連続の上昇となった(4-6月期:同+0.5%)。

#### (2) 輸入

##### <関西>

関西9月の輸入額は1兆6,377億円で、前年同月比+4.7%と6カ月連続で増加した(前月:同+4.1%)。財別に見れば、主に医薬品、原油及び粗油等が増加に寄与した。結果、7-9月期は前年同期比+7.5%と2四半期連続の増加となった(前期:同+3.7%)。

### <全国>

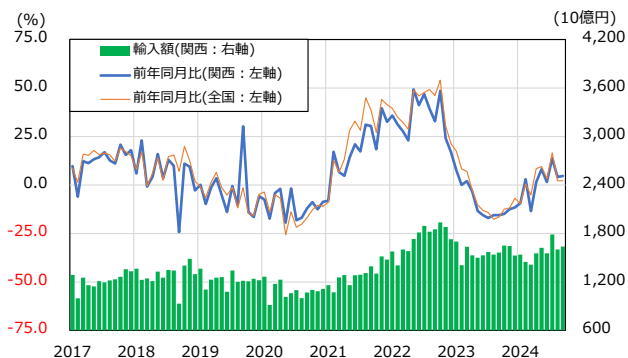
全国9月の輸入額は9兆3,325億円で、前年同月比+2.1%と6カ月連続の増加(前月：同+2.3%)。財別にみると主に電算機類(含周辺機器)、半導体等電子部品、医薬品等が増加に寄与した。結果、7-9月期は前年同期比+6.9%と2四半期連続の増加となった(前期：同+7.1%)。

また、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西9月の実質輸入(速報、季節調整値、2020年平均=100)は、104.3で前月比-1.5%と6カ月ぶりに低下した(前月：同+5.9%)。全国9月の実質輸入は110.3で同+1.3%と4カ月連続で上昇した(前月：同+0.5%)

結果、7-9月期を前期と比較すると、関西は+7.8%の上昇(4-6月期：前期比+3.8%)。一方、全国は同+4.3%の上昇となった(4-6月期：同+3.4%)。ともに2四半期連続のプラス。

関西の実質輸出は7四半期ぶりに、実質輸入は2四半期連続でプラスとなった。後者の伸びが前者を上回ったため、財貨の実質純輸出は景気に対して下押しとなる。

関西・全国の輸入の推移(2017年1月~24年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (3) 貿易収支

#### <関西>

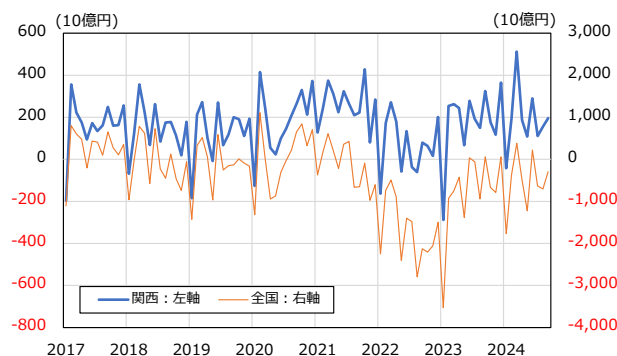
関西9月の貿易収支は+1,960億円(前月：+1,545億円)と8カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-39.7%縮小した(前月：同+3.3%)。7-9月期の貿易収支は+4,615億円となり、8四半期連続の黒字だが、黒字幅は前

年同期比-30.9%と大幅縮小した(4-6月期：同-0.7%)。

#### <全国>

全国9月の貿易収支は-2,943億円(前月：-7,032億円)と3カ月連続の赤字で、前年同月差-3,549億円となった。7-9月期の貿易収支は-1兆6,318億円で13四半期連続の赤字となった。赤字幅は前年同期比+73.4%と6四半期ぶりに大幅拡大した。

関西・全国の貿易収支の推移(2017年1月~24年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (4) 地域別貿易

9月の貿易を地域別にみれば、輸出については、対アジア向けは拡大したものの、欧米向けの減速が目立つ。一方、輸入については対EUが好調であった。

#### <対アジア貿易>

関西9月の対アジア輸出額は前年同月比+1.8%と7カ月連続の増加。一方、輸入額は同-4.0%と2カ月連続の減少となった。結果、対アジア貿易収支は+2,277億円と20カ月連続の黒字となった(同+35.6%)。

うち、対中輸出額は前年同月比-4.0%(前月：同+1.1%)と7カ月ぶりに、輸入額は同-2.4%(前月：同-9.2%)と2カ月連続で、それぞれ減少した。輸出では鉱物性燃料、電気回路等の機器等が、輸入では衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等がそれぞれ減少に寄与した。結果、対中貿易収支は-873億円と6カ月連続の赤字となった。

対 ASEAN 輸出額は前年同月比+2.6%と 3 カ月連続の増加だが、輸入額は同-4.3%と 3 カ月ぶりの減少。輸出では原動機、原料品等が増加に寄与し、輸入では通信機、がん具及び遊戯用具等が減少に寄与した。結果、対 ASEAN 貿易収支は+394 億円と 8 カ月連続の黒字となった(同+94.6%)。

#### 対アジア貿易収支

(単位：億円,%)

関西	2024/9			貿易収支の推移
	貿易収支	前年同月比	前年同月差	
対アジア	+2,277	+35.6	+597	20カ月連続の黒字
対中国	-873	+6.1	-50	6カ月連続の赤字
対ASEAN	+394	+94.6	+191	8カ月連続の黒字

#### 対アジア輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

関西	2024/9		前年比の推移
	輸出額	前年同月比	
対アジア	11,688	+1.8	7カ月連続の増加
対中国	4,206	-4.0	7カ月ぶりの減少
対ASEAN	2,963	+2.6	3カ月連続の増加

#### 対アジア輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

関西	2024/9		前年比の推移
	輸入額	前年同月比	
対アジア	9,411	-4.0	2カ月連続の減少
対中国	5,079	-2.4	2カ月連続の減少
対ASEAN	2,569	-4.3	3カ月ぶりの減少

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

#### <対欧米貿易>

対米輸出額は同-5.9%と 4 カ月連続の減少。一方、輸入額は同+11.5%と 6 カ月連続で増加した。輸出では建設用・鉱山用機械、医薬品等が減少に寄与し、輸入では医薬品、天然ガス及び製造ガス等が増加に寄与した。結果、対米貿易収支は+1,739 億円と黒字を維持したものの、黒字幅は前年同月比-16.6%と 4 カ月連続で縮小した。

対 EU 輸出額は前年同月比-15.9%と 4 カ月連続の減少。一方、輸入額は同+31.6%と 5 カ月連続で増加した。輸出では遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が減少に寄与し、輸入では医薬品、肉類及び同調製品等が増加に寄与した。結果、対 EU 貿易収支は-476 億円と 6 カ月連続の赤字となった(前年同月差-853 億円)。

#### 対欧米貿易収支

(単位：億円,%)

関西	2024/9			貿易収支の推移
	貿易収支	前年同月比	前年同月差	
対米国	+1,739	-16.6	-346	88年1月以来黒字
対EU	-476	-	-853	6カ月連続の赤字

#### 対欧米輸出額と前年同月比

(単位：億円,%)

関西	2024/9		前年比の推移
	輸出額	前年同月比	
対米国	3,164	-5.9	4カ月連続の減少
対EU	1,723	-15.9	4カ月連続の減少

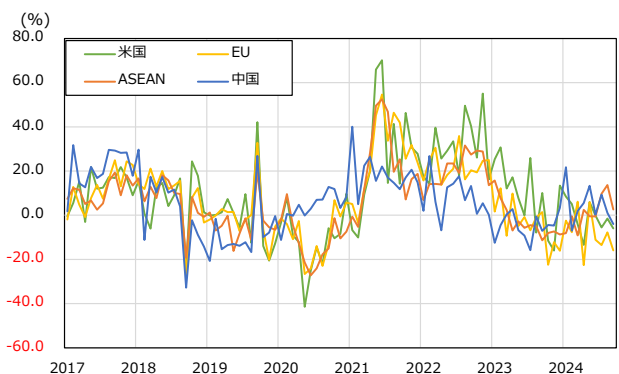
#### 対欧米輸入額と前年同月比

(単位：億円,%)

関西	2024/9		前年比の推移
	輸入額	前年同月比	
対米国	1,424	+11.5	6カ月連続の増加
対EU	2,199	+31.6	5カ月連続の増加

(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

#### 関西の地域別輸出推移(前年同月比:2017年1月~24年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

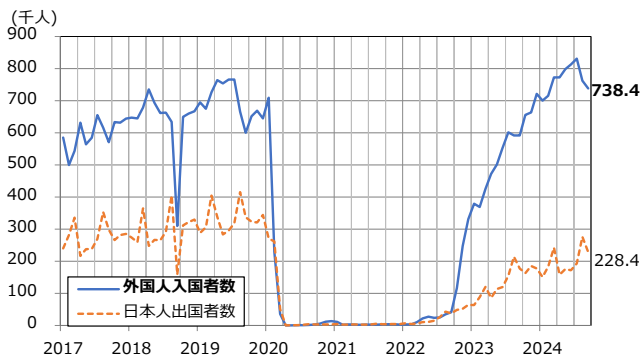
#### (5) 関空の出入国者数

法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、9月の関空経由の外国人入国者数は73万8,390人となり(前月:76万2,632人)、9月として過去最高値を更新した。前年同月比+24.8%と、前月(同+28.9%)から増加幅は縮小したものの、依然2桁の伸びが続いており、外国人入国者数は好調を維持している。

7-9月期の外国人入国者数は233万2,057人で、4四半期連続で200万人超の水準となった(前年同期比+30.7%)。なお、1-9月期累計では690万4,630人、年率換算で920万6,173人となり、コロナ禍前の水準(2019年:837万

8,039 人)を上回る見通しである。

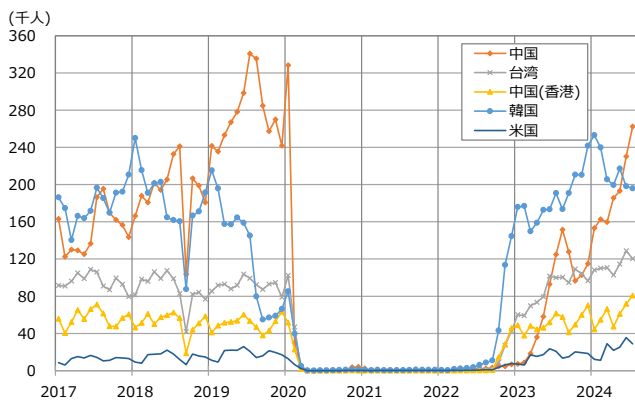
関西訪日外客数と出国日本人数の推移(2017年1月~24年9月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

7月の出入国管理統計月報では、関空への訪日外客総数は83万1,042人であった。前年同月比では+38.2%大幅増加した(前月:同+47.1%)。上位5カ国・地域をみれば、中国が26万2,350人(同+110.4%)で最多となった。次いで韓国が19万5,805人(同+2.7%)、台湾が12万259人(同+20.4%)、香港が8万793人(同+31.5%)、米国が2万8,727人(同+37.7%)と続く。

上位5カ国・地域別訪日外客数(2017年1月~24年7月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

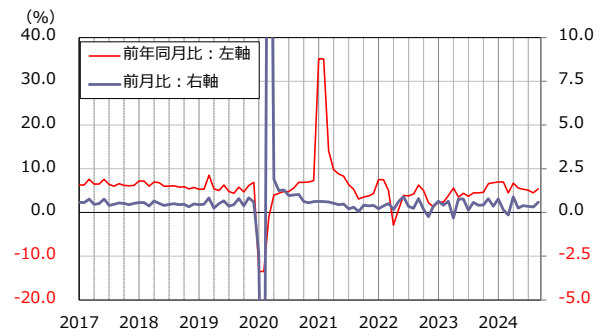
また、9月の日本人出国者数は22万8,387人であった(前年同月比+28.7%)。なお、19年同月比では-32.3%と3カ月連続でマイナス幅は縮小したものの、依然コロナ禍前の水準は回復できていない。

## 【中国景気モニター】

### (1) 生産

9月の工業生産は、前月比+0.59%と6カ月連続の増加。また、前年同月比では+5.4%(前月:同+4.5%)と29カ月連続で増加した。前月比は3カ月ぶり、前年比は5カ月ぶりに加速したものの、伸び率の3カ月平均をみれば、7-9月期は4-6月期から前期比、前年比ともに減速しており低調となった。

工業生産指数(2017年1月~24年9月)



(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

産業別(主要20産業ベース)に見れば、鉄道・輸送機器製造業(前年同月比+13.7%)、医薬製造業(同+11.0%)、パソコン・通信設備製造業(同+10.6%)等が増産となった。一方、減産となったのは非金属鉱物製品製造業(同-3.8%)のみであった。なお、自動車製造業は同+4.6%と緩やかな増産にとどまっている。

一方、サービス産業生産指数を見ると、9月は前年同月比+5.1%上昇し、前月(同+4.6%)から幾分か加速した。累積値(1-9月期)をみれば、+4.9%と前月から横ばいであった。

サービス産業生産指数(2017年1月~24年9月)



(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

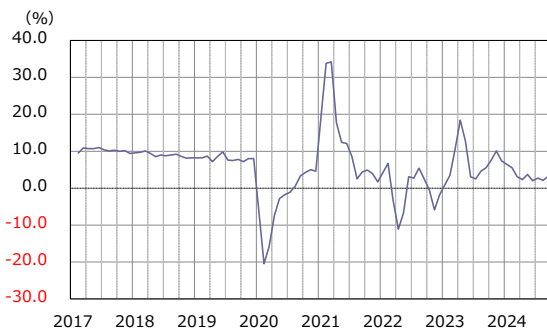


## (2) 消費

9月は、消費の回復が加速した。内訳を見ると、サービス消費の回復ペースは鈍化した一方で、商品小売の回復は加速した。

社会消費品小売総額(名目)は4.11兆円で前年同月比+3.2%増加し、21カ月連続のプラス。伸びは前月(同+2.1%)より拡大した。全体の1割を占める飲食店収入は同+3.1%と21カ月連続のプラスとなったが、伸びは前月(同+3.3%)から縮小した。一方、商品小売は同+3.3%と21カ月連続のプラスとなり、伸びは前月(同+1.9%)より拡大した。ただし、内訳をみると、建築・装飾資材(同-6.6%)などの住宅関連需要はマイナスが続いている。また、自動車(同+0.4%)は年初来のプラスに転じたものの、依然として低調である。

社会消費品小売総額(2017年1月~24年9月)



(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

なお、電子商取引の小売総額は1.26兆円で、前年同月比-1.8%減少し、3カ月ぶりのマイナスとなった(前月:同+2.3%)。

## (3) 物価水準

9月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+0.4%と、8カ月連続のプラスとなった。上昇幅は前月(同+0.6%)から縮小した。

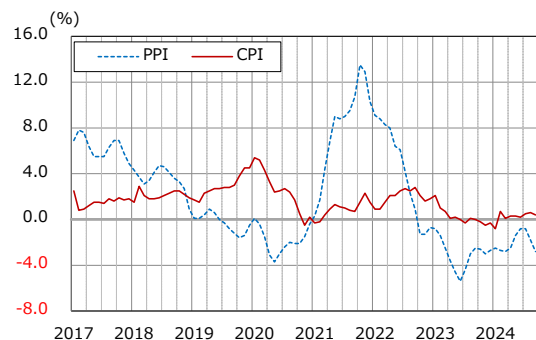
CPIのうち、食品価格は前年同月比+3.3%と、2カ月連続のプラスとなった。うち、豚肉は同+16.2%と6カ月連続、生鮮野菜は同+22.9%と3カ月連続で、それぞれ上昇した。ガソリンなど交通燃料は同-7.6%と2カ月連続で低下した。

なお、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は前年同月比+0.1%上昇し、伸びは3カ月連続で縮小した(前月:同+0.3%)。22年7月以降、23年1月と24年2月を除けば、0%台の低い伸びが続いている。うち、自動車やバイク(同-5.3%、27カ月連続)、スマートフォンなど通信機器(同-2.8%、21カ月連続)などの耐久消費財価格の下落が続く。サービス価格は同+0.2%となり、43カ月連続で上昇したが、伸びは4カ月連続で縮小し、7カ月連続で1%を下回っている(前月:同+0.5%)。

生産者物価指数(PPI)は前年同月比-2.8%と、24カ月連続のマイナスである。下落幅は2カ月連続で拡大した(前月:同-1.8%)。財別に見ると、鉱工業などの生産工程に投入される製品をまとめた生産財価格は同-3.3%と24カ月連続で低下し、下落幅は前月(同-2.0%)から拡大した。

内需の低迷により、CPIの前年同月比は2023年3月以降、マイナスまたは0%台が続く。特に、自動車やバイクなどの耐久消費財の価格は22年7月以降、下落が続いている。また、コロナ禍後に回復傾向を示していたサービス価格も24年3月以降は0%台にとどまっている。足下では、食品価格の上昇により耐久財などの必需品以外の消費をさらに冷え込ませる懸念がある。一方、PPIは下落傾向を維持しており、下落幅は2カ月連続で拡大し、-3%台に迫っている。

消費者物価指数・生産者物価指数(2017年1月~24年9月)

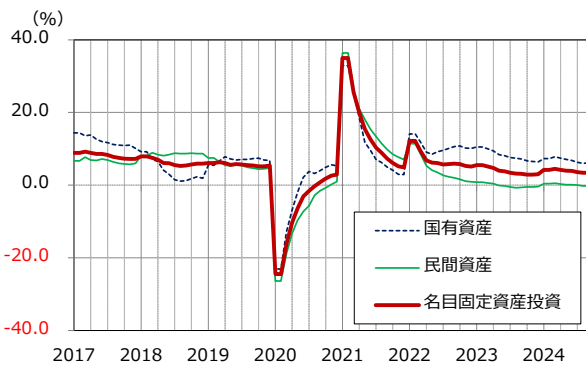


(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

#### (4) 固定資産投資

1-9 月期の累積固定資産投資(名目: 37.9 兆元)は前年同期比+3.4%増加し、1-8 月期(以下、前月)から伸びは横ばいとなった。うち、国有企業の固定資産投資(18.8 兆元)は同+6.1%増加した(前月: 同+6.0%)。一方、民間固定資産投資(19.1 兆元)は同-0.2%と減少した(前月: 同-0.2%)。

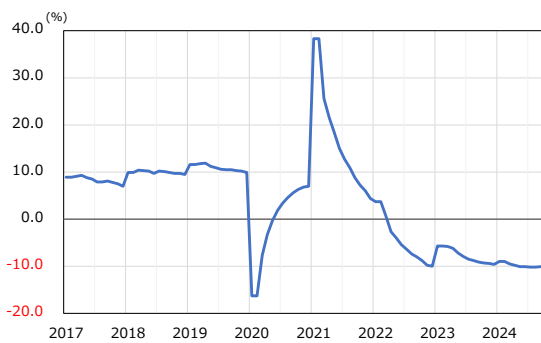
固定資産投資累積伸び率(2017年1月~24年9月)



(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

また 1-9 月期の不動産投資をみれば、前年同期比-10.1%減少した。マイナス幅は前月(同-10.2%)からほぼ横ばいで、依然として下落基調が続いている。

不動産投資累積伸び率(2017年1月~24年9月)

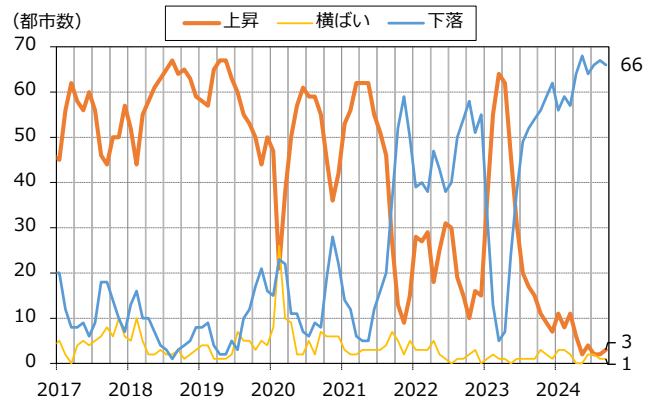


(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

#### (5) 不動産市場

9 月の不動産市場は依然不況が続いている。中国主要 70 都市のうち、新築住宅価格が前月から上昇した都市数は 3 で前月から 1 都市増加し、3 カ月ぶりのプラス。一方、下落した都市数は 66 で前月から 1 都市減少し、3 カ月ぶりのマイナス。なお、横ばいの都市数は 1 で前月から変化なし。

主要 70 都市新築住宅価格動向(2017年1月~24年9月)



(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

結果、住宅価格が下落した都市の割合は 94%となり、6 カ月連続で 90%を上回っている(前月:96%)。住宅市場不況が長引いているため、地方政府は一部の都市の過度な値崩れを防ぐための価格統制を撤廃し、不動産会社による自由な価格設定を認めた。結果、値下げ競争が一層激化した。中には、原価割れを防ぐために販売を一時停止するところもあった。

なお、市場の需給をより反映しやすい中古物件ベースでは、価格が下落した都市数は全体の 100%を占めており、16 カ月連続で 90%を上回っている(前月:99%)。

#### (6) センチメント

9 月の製造業購買担当者景況感指数(PMI)は 49.8%で、前月差+0.7%ポイントと 3 カ月ぶりの上昇となった。景気判断の分岐点である 50%を 5 カ月連続で下回っており、製造業の景気減速は鮮明である。

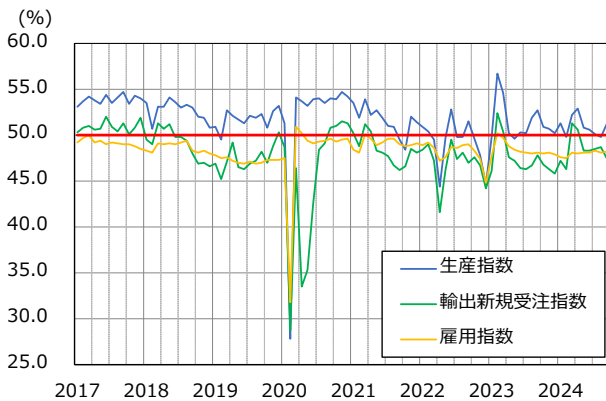
指数構成項目の動きは以下の表のとおりである。9 月の生産は 5 カ月ぶりに上昇し、2 カ月ぶりに 50%を上回った。しかし新規受注、輸出新規受注ともに 5 カ月連続で、雇用は 19 カ月連続で 50%を下回っている。

製造業購買担当者景況感指数(2024年8月~9月)

	2024/08	2024/09	前月差	(単位:%,%pt)
PMI: 製造業	49.1	49.8	+0.7	3カ月ぶりの上昇
サブ指標 (全13項目)				
生産指数	49.8	51.2	+1.4	5カ月ぶりの上昇
新規受注指数	48.9	49.9	+1.0	6カ月ぶりの上昇
輸出新規受注指数	48.7	47.5	-1.2	4カ月ぶりの低下
雇用指数	48.1	48.2	+0.1	2カ月ぶりの上昇

(出所)中国国家统计局、CEIC データベース

製造業購買担当者景況感指数(2017年1月~24年9月)



(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

非製造業 PMI は 50.0% で、前月差 -0.3% ポイントと 2 カ月ぶりに低下した(前月: 同+0.1% ポイント)。

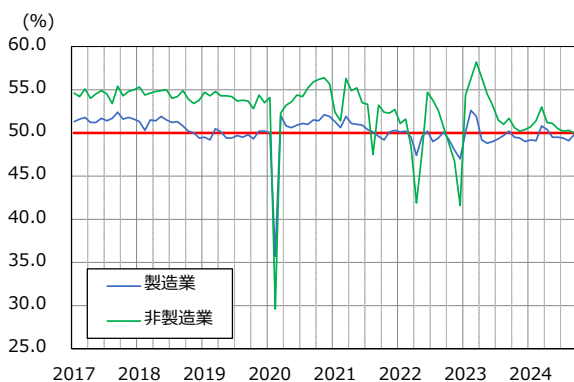
うち、建設業の活動指数は 50.7% で前月差 +0.1% ポイントと 5 カ月ぶりの小幅上昇(前月: 同-0.6% ポイント)。サービス業の活動指数は 49.9% で前月差 -0.3% ポイント(前月: 同+0.2% ポイント)と 2 カ月ぶりに低下し、9 カ月ぶりに 50% を下回った。内需の弱さが出ている。

非製造業購買担当者景況感指数(2024年8月~9月)

	2024/08	2024/09	前月差	(単位:%,%pt)
PMI: 非製造業	50.3	50.0	-0.3	2カ月ぶりの低下
サブ指標 (全10項目)				
新規受注指数	46.3	44.2	-2.1	2カ月ぶりの低下
雇用指数	45.2	44.7	-0.5	5カ月連続の低下
非製造業: 建設業	50.6	50.7	+0.1	5カ月ぶりの上昇
非製造業: サービス業	50.2	49.9	-0.3	2カ月ぶりの低下

(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

製造業・非製造業購買担当者景況感指数(2017年1月~24年9月)

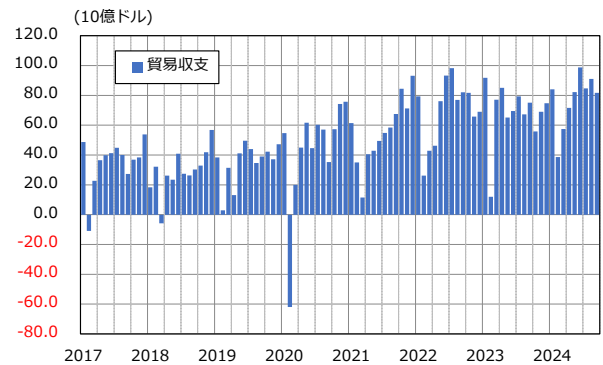


(出所) 中国国家统计局、CEICデータベース

## (7) 貿易動向

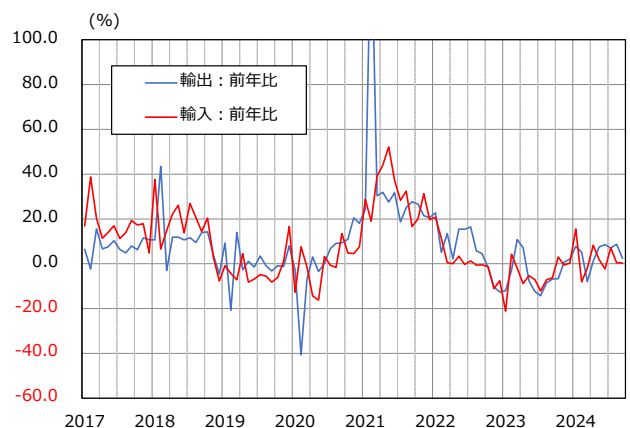
9月の貿易収支(速報値:ドル・ベース)は+817.1億ドルと、20年3月以来55カ月連続の黒字となった(前月:+910.2億ドル)。輸出額は3,037.1億ドルで、前年同月比+2.4%と6カ月連続の増加(前月:同+8.7%)。輸入額は2,220.0億ドルで、同+0.3%と3カ月連続で増加した(前月:同+0.5%)。輸出の伸びは前月から大幅縮小したものの、輸入の伸びは2カ月連続で0%台にとどまったため、貿易収支の黒字幅は同+8.8%と5カ月連続で拡大した。なお、貿易総額は同+1.5%と6カ月連続の拡大だが前月(同+5.2%)から減速している。

中国の貿易収支の推移(ドル・ベース, 2017年1月~24年9月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

中国の輸出入額伸び率(ドル・ベース, 2017年1月~24年9月)



(出所) 中国税関、CEICデータベース

地域別貿易の推移は以下の表のとおりである。9月の対日貿易収支は+0.1億ドルで、3カ月ぶりの黒字となった(前月:-6.4億ドル)。対韓貿易収支は-43.2億ドルで、17カ月連続の赤字(前月:-26.8億ドル)。対ASEAN貿易収支は+95.8億

ドルで、20年3月以降55カ月連続で黒字が続いている(前月: +125.5億ドル)。

中国の対アジア貿易概況(ドル・ベース, 24年9月)

(単位: 億ドル,%)

日本	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	264.9	-7.1	4カ月連続の縮小
輸出	132.5	-7.1	2カ月ぶりの減少
輸入	132.4	-7.1	4カ月連続の減少

韓国	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	272.1	-2.7	6カ月ぶりの縮小
輸出	114.5	-9.2	5カ月ぶりの減少
輸入	157.6	+2.6	7カ月連続の増加

ASEAN	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	832.4	+4.9	6カ月連続の拡大
輸出	464.1	+5.5	6カ月連続の増加
輸入	368.3	+4.2	3カ月連続の増加

(出所) 中国税関、CEICデータベース

対米貿易収支は+333.3億ドルで、1993年1月以降黒字が続いている(前月: +338.1億ドル)。対EU貿易収支は+190.6億ドルで、2020年3月以降55カ月連続の黒字となった(前月: +235.7億ドル)。

中国の対欧米貿易概況(ドル・ベース, 24年9月)

(単位: 億ドル,%)

米国	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	607.1	+3.1	6カ月連続の拡大
輸出	470.2	+2.2	5カ月連続の増加
輸入	136.9	+6.7	3カ月連続の増加

EU	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	650.6	-0.4	4カ月ぶりの縮小
輸出	420.6	+1.3	4カ月連続の増加
輸入	230.0	-3.5	2カ月連続の減少

(出所) 中国税関、CEICデータベース

対ロシア貿易収支は+6.8億ドルで、2カ月ぶりの黒字となった(前月: -11.6億ドル)。輸出の伸びが2カ月連続で2桁のプラス、輸入は2カ月連続のマイナスとなったためである。なお、輸出額は月別過去最高額を更新した。

中国の対ロシア貿易概況(ドル・ベース, 24年9月)

(単位: 億ドル,%)

ロシア	2024/9		前年同月の推移
	金額	前年同月比	
貿易総額	218.1	+3.0	3カ月連続の拡大
輸出	112.5	+16.6	2カ月連続の増加
輸入	105.6	-8.4	2カ月連続の減少

(出所) 中国税関、CEICデータベース

9月の輸出入それぞれの寄与度を地域別にみれば、輸出の伸び(前年同月比+2.4%)に対して、対ASEAN(+0.8%ポイント)や対ロシア(+0.5%ポイント)が増加に寄与したものの、対韓国(-0.4%ポイント)や対日本(-0.3%ポイント)が減少に寄与した。一方、輸入についてみれば(同+0.3%)、対ASEAN(+0.7%ポイント)や対米国(+0.4%ポイント)が増加に寄与したものの、対日本(-0.5%ポイント)が減少に寄与した。

(8) GDP

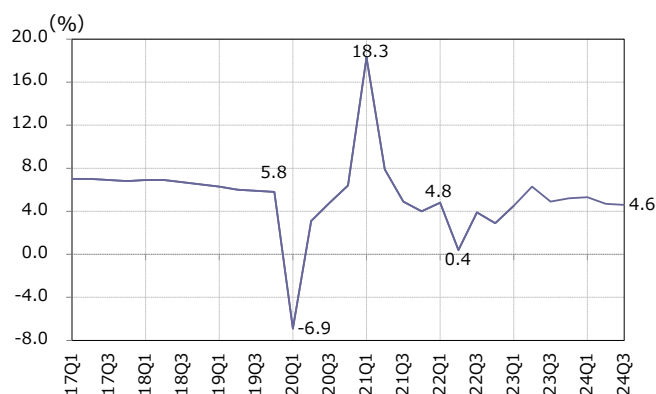
2024年7-9月期の実質GDPは前年同期比+4.6%と18四半期連続の上昇となり、4-6月期同+4.7%、1-3月期同+5.3%から2四半期連続で減速した。なお、季節調整値で見ると、7-9月期の実質GDPは前期比+0.9%、4-6月期(同+0.7%)よりわずかに加速した。年率換算した前期比は+3.6%となる(4-6月期: 同+2.8%)。

産業別では、第2次産業は前年同期比+4.6%と前期(同+5.6%)より減速した一方で、第3次産業は同+4.8%と前期(同+4.2%)より幾分か加速した。

業種別では、不動産業は前年同期比-1.9%と、2021年7-9月以降マイナスが続いている(23年1-3月期を除き)。減少幅は前期より縮小した(4-6月期: 同-4.6%)。それ以外の業種では前年同期比がプラスとなったが、製造業や建築業、卸売・小売業など主な業種では伸びが前期より縮小した。

なお、7-9月期の名目GDP成長率は前年同期比+4.0%であり、6四半期連続で実質GDP成長率を下回っている。デフレ圧力の強さを示している。

実質 GDP 成長率の推移(2017年 Q1~24年 Q3)



(出所)中国国家统计局、CEICデータベース

### (9) 中国経済レビュー

7-9 月期、中国の実質 GDP は前年同期比+4.6%と、前期(同+4.7%)よりわずかに減速し、政府目標の+5.0%程度を2四半期連続で下回った。生産と消費はともに伸び悩み、低調である。

9月の工業生産をみれば、前年比は5カ月ぶりに加速した。また、サービス産業も前月より幾分か加速した。

個人消費において、商品小売の回復は加速した。ただし、住宅市場の不況が長引いている影響を受けて、住宅関連消費の落ち込みは続いている。また、自動車など耐久消費財に対する需要も依然として低調である。その結果、物価は引き続き低迷しており、消費者物価指数の前年同月比は0%台が続いている。

なお、9月の都市部失業率は5.1%となり、2カ月連続で前年同月から上昇した。特に若年層の雇用情勢は悪化している。8月時点で16~24歳の若年層において失業率は18.8%と2カ月連続で上昇した(6月:13.2%、7月:17.1%)。

総じて、生産と消費の回復は低調であり、景気の減速傾向が見られる。中国政府は、中央銀行による利下げなど追加の金融緩和策を講じるとともに、新たな景気刺激策の実施を表明した。しかし、雇用回復の遅れや不動産市場の深刻な不況により、短期間での大幅な改善は難しいと予想される。そのため、10-12月期の景気は7-9月期より改善が見込まれない。

---

Contact : 野村亮輔・吉田茂一

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)

---

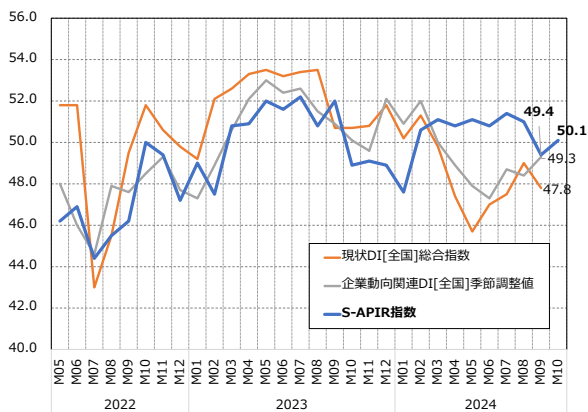
## 【S-APIR 指数からみた日次景気動向】

### <今月の景気ウォッチャー指数と S-APIR 指数>

全国9月の景気ウォッチャー調査(調査期間:9月25日~30日)によれば、景気の現状判断 DI(総合:季節調整値)は47.8、前月差-1.2ポイントと4カ月ぶりに低下。また、景気判断の分岐点である「50」を7カ月連続で下回った。

うち、構成項目である企業動向関連DIは49.3で、前月差+0.9ポイントと2カ月ぶりに上昇した(前月:同-0.3ポイント)。同調査期間におけるS-APIR 指数は9月に48.8となり、前月の同期間(50.4)から-1.6ポイントの低下となった。なお、9月平均では49.4となり、前月(51.0)から-1.6ポイント低下した。

景気ウォッチャーDI と S-APIR 指数の月次推移  
(2022年5月~24年10月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」および APIR「S-APIR 指数」

### <S-APIR 指数からみた景況感の日次動向>

S-APIR 指数の日次データ(7日移動平均)を用いて、センチメントの9,10月の動向をみよう。

9月の動態を週次でみれば、第1週は52.4(7日)まで急上昇したが、第2週、第3週は低下傾向で推移し47.5(25日)まで低下した。第4週の景気ウォッチャーの調査期間には上昇に転じた(右図の緑色の丸部分)。

10月第1週は引き続き上昇傾向で推移し、第2週は53.8(10日)のピークに達したが、その後反転し、低下傾向が続き、足下49.3(21日)となっている。

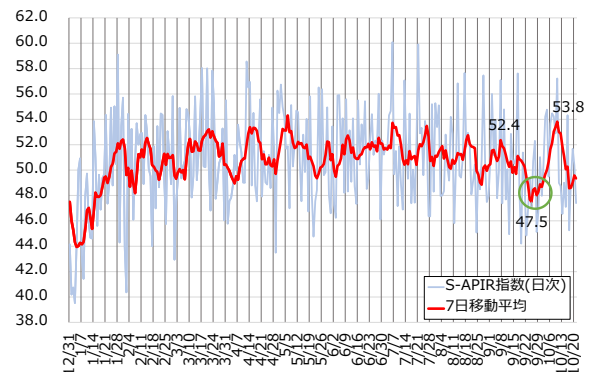
S-APIR 指数の10月平均(21日まで)は50.1であり、9月平均値(49.4)から上昇した。

なお、S-APIR 指数に影響するバースト単語を列挙すると、10月初旬は9月に引き続き「台風」や「大雨」、「不安定」など天候に関するワードが並んでいた。それぞれの単語はマイナスの寄与であったが、「台風」の寄与は10月第1週でほぼゼロとなった。

中旬には「トランプ氏」や「大統領」、「立候補」など米国の政治情勢に関するワードが3カ月連続で上位に挙げられている。これらの単語もマイナス寄与が大きい。

また、下旬には「首相」や「選挙」、「自民党」など日本の政治に関するワードも挙げられているが、これらの単語もマイナス寄与を示している。一方、プラス寄与の単語としては「AI」などが挙げられる。

S-APIR 指数の日次と7日移動平均の推移  
(2023年12月31日~24年10月21日)



(出所) APIR「S-APIR 指数」

なお、S-APIR 指数の開発に関するより詳細な説明は  
<https://www.apir.or.jp/project/post15296/>を参照のこと。

【主要月次統計 1】

	23/10M	23/11M	23/12M	24/1M	24/2M	24/3M	24/4M	24/5M	24/6M	24/7M	24/8M	24/9M
<b>生産</b>												
[関西]鉱工業生産指数(季節調整値、20年=100)	102.6	99.0	100.0	94.8	93.0	95.4	97.9	98.2	94.9	102.1	95.0	NA
前月比(%)	0.7	-3.5	1.0	-5.2	-1.9	2.6	2.6	0.3	-3.4	7.6	-7.0	NA
[関西]鉱工業出荷指数(季節調整値、20年=100)	100.7	98.6	99.4	93.2	90.8	94.3	96.2	98.2	92.6	101.2	91.5	NA
前月比(%)	-1.1	-2.1	0.8	-6.2	-2.6	3.9	2.0	2.1	-5.7	9.3	-9.6	NA
[関西]鉱工業在庫指数(季節調整値、20年=100)	105.6	105.2	106.0	104.6	104.8	104.6	106.8	104.1	105.8	104.6	108.7	NA
前月比(%)	0.0	-0.4	0.8	-1.3	0.2	-0.2	2.1	-2.5	1.6	-1.1	3.9	NA
[全国]鉱工業生産指数(季節調整値、20年=100)	104.4	103.8	105.0	98.0	97.4	101.7	100.8	104.4	100.0	103.1	99.7	NA
前月比(%)	1.2	-0.6	1.2	-6.7	-0.6	4.4	-0.9	3.6	-4.2	3.1	-3.3	NA
[全国]鉱工業出荷指数(季節調整値、20年=100)	103.6	102.8	104.4	96.6	95.9	100.4	100.0	103.9	99.0	101.7	97.5	NA
前月比(%)	0.3	-0.8	1.6	-7.5	-0.7	4.7	-0.4	3.9	-4.7	2.7	-4.1	NA
[全国]鉱工業在庫指数(季節調整値、20年=100)	103.6	103.6	102.7	101.0	101.6	102.6	102.4	103.3	102.6	103.0	102.2	NA
前月比(%)	0.0	0.0	-0.9	-1.7	0.6	1.0	-0.2	0.9	-0.7	0.4	-0.8	NA
<b>労働</b>												
[関西]完全失業率(季節調整値、%)	2.9	2.7	2.6	2.7	3.1	3.2	2.8	2.8	2.2	2.7	2.6	NA
(原数値、%)	2.9	2.5	2.4	2.6	3.1	3.1	3.0	2.8	2.4	2.9	2.7	NA
[全国]完全失業率(季節調整値、%)	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.7	2.5	NA
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.18	1.16	1.16	1.15	1.15	1.17	1.15	1.12	1.11	1.13	1.12	NA
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.29	1.27	1.27	1.27	1.26	1.28	1.26	1.24	1.23	1.24	1.23	NA
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.28	2.20	2.18	2.28	2.20	2.38	2.20	2.09	2.18	2.28	2.23	NA
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.25	2.25	2.25	2.28	2.26	2.38	2.17	2.16	2.26	2.22	2.32	NA
[関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.9	-0.6	2.1	0.4	2.6	2.8	1.3	1.6	7.2	3.1	NA	NA
[関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-1.8	-3.8	-0.8	-2.0	-0.7	-0.2	-1.4	-1.6	3.7	-0.3	NA	NA
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	1.5	0.7	0.8	1.5	1.4	1.0	1.6	2.0	4.5	3.4	3.0	NA
<b>小売</b>												
[関西]大型小売店販売額(10億円)	330.6	343.4	422.6	338.2	312.7	347.5	329.9	342.9	346.3	354.3	340.1	NA
前年同月比(%、全店ベース)	6.5	7.0	4.4	5.9	9.2	9.4	7.0	8.9	9.2	3.4	5.2	NA
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,801.8	1,836.3	2,284.6	1,826.4	1,702.1	1,888.6	1,761.2	1,821.2	1,867.5	1,899.0	1,869.1	NA
前年同月比(%、全店ベース)	4.0	4.4	2.6	3.3	7.6	6.9	3.0	4.4	6.9	1.3	4.7	NA
<b>物価</b>												
[関西]消費者物価指数 総合(原数値、20年=100)	106.7	106.6	106.5	106.6	106.6	106.9	107.3	107.8	107.9	108.3	109.0	108.7
前年同月比(%)	3.2	2.8	2.5	2.1	2.8	2.6	2.4	2.7	3.0	2.9	3.3	2.7
[関西]生鮮食品を除く総合(原数値、20年=100)	106.0	106.1	106.1	106.1	106.3	106.6	106.8	107.2	107.4	108.0	108.5	107.9
前年同月比(%)	2.8	2.5	2.2	2.0	2.9	2.6	2.1	2.5	2.8	2.8	3.0	2.5
[関西]生鮮食品及びエネルギーを除く総合(原数値、20年=100)	106.0	106.1	106.1	106.2	106.4	106.6	106.8	106.9	106.9	107.1	107.8	107.8
前年同月比(%)	4.0	3.8	3.7	3.5	3.4	2.9	2.4	2.1	2.0	1.8	2.0	2.0
<b>住宅・建設</b>												
[関西]新設住宅着工(原数値、戸数)	12,445	10,311	10,205	9,109	9,556	11,240	13,656	11,149	10,843	10,527	10,770	NA
前年同月比(%)	-10.6	-8.6	-7.1	-19.0	-10.5	-16.4	31.8	4.7	1.3	-0.1	4.5	NA
[全国]新設住宅着工(原数値、戸数)	71,769	66,238	64,586	58,849	59,162	64,265	76,583	65,882	66,285	68,014	66,819	NA
前年同月比(%)	-6.3	-8.5	-4.0	-7.5	-8.2	-12.8	13.9	-5.3	-6.7	-0.2	-5.1	NA
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	11,219	10,380	10,891	11,044	10,354	10,094	12,363	12,301	10,812	10,085	11,109	NA
前年同月比(%)	0.8	-7.5	4.9	1.4	-6.3	-2.5	22.5	-0.5	-12.1	-6.7	10.2	NA
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	67,320	64,624	67,835	66,830	66,229	63,332	73,317	67,721	63,767	64,398	64,717	NA
前年同月比(%)	1.0	-4.0	3.1	-1.5	-0.9	-4.4	15.8	-7.6	-5.9	1.0	0.5	NA
[関西]マンション契約率(季節調整値)	80.6	64.3	70.7	70.6	70.7	79.4	73.2	72.9	73.8	83.9	68.1	81.5
原数値	78.0	62.4	73.4	68.5	77.1	82.2	68.5	68.7	75.3	82.2	72.2	80.8
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	63.0	74.7	67.0	74.1	68.7	66.6	58.2	55.5	66.2	73.1	65.7	68.6
原数値	60.9	74.2	66.1	72.8	69.9	72.1	62.4	56.0	66.4	70.9	63.5	65.5
[関西]建設工事(総合、10億円)	701.2	720.3	767.0	748.2	725.3	718.8	669.9	658.2	675.7	692.2	715.1	NA
前年同月比(%)	3.0	3.5	4.7	0.4	-3.7	-2.7	4.3	3.5	5.0	5.4	4.6	NA
[全国]建設工事(総合、10億円)	5,068.0	5,074.2	5,182.7	4,976.5	4,878.7	4,928.1	4,362.9	4,269.8	4,480.1	4,650.6	4,870.2	NA
前年同月比(%)	1.0	-0.1	-2.3	-5.0	-5.2	-4.7	-0.8	0.1	1.1	1.4	1.8	NA
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,058.7	2,096.7	2,239.3	2,156.3	2,104.4	2,120.5	1,666.0	1,562.6	1,687.1	1,811.9	1,947.8	NA
前年同月比(%)	3.4	2.4	-2.3	-5.6	-5.0	-6.0	2.8	2.1	3.9	3.9	3.2	NA
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	118.2	101.4	122.3	59.3	79.5	133.1	318.0	243.5	272.4	158.7	120.3	158.8
前年同月比(%)	-33.8	28.0	52.3	-8.7	-3.4	-23.4	18.4	12.3	-7.1	-0.7	3.5	5.9
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,093.3	764.7	719.3	573.4	891.7	1,624.3	2,432.4	1,590.1	1,719.7	1,530.7	1,070.6	1,275.2
前年同月比(%)	3.6	9.9	14.5	12.7	-0.7	6.2	18.8	12.3	-5.3	10.9	-3.9	-1.9
<b>消費者心理</b>												
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	35.4	35.5	36.0	36.9	38.6	40.2	38.6	37.3	36.4	36.5	35.6	36.1
暮らし向き(季節調整値)	33.3	34.3	34.7	34.7	37.1	38.6	37.0	34.5	34.7	34.1	33.8	33.3
収入の増え方(季節調整値)	39.1	38.4	38.6	38.3	39.5	40.5	41.2	39.9	40.0	39.9	38.5	39.6
雇用環境(季節調整値)	38.5	38.5	39.7	43.2	44.4	45.4	44.7	43.8	41.4	42.8	41.3	40.7
耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	30.3	30.7	30.8	31.4	33.4	35.0	31.4	29.5	29.5	29.4	30.8	31.1
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	35.7	36.1	37.2	38.1	39.0	39.5	38.3	36.2	36.4	36.7	36.7	36.9
<b>景況感</b>												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	51.1	52.8	53.0	50.1	53.5	50.5	48.1	45.7	47.6	47.7	47.4	46.7
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.1	50.6	52.8	53.1	53.8	49.2	47.5	45.1	47.6	48.5	49.7	49.3
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.7	50.8	51.8	50.2	51.3	49.8	47.4	45.7	47.0	47.5	49.0	47.8
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.8	50.3	50.4	52.5	53.0	51.2	48.5	46.3	47.9	48.3	50.3	49.7

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

NAはデータ未公表であることを示す

【主要月次統計 2】

	23/10M	23/11M	23/12M	24/1M	24/2M	24/3M	24/4M	24/5M	24/6M	24/7M	24/8M	24/9M
国際貿易												
[関西]貿易収支(10億円)	176.5	117.4	374.8	-41.8	194.9	512.1	187.3	108.6	290.1	110.9	154.5	196.0
前年同月比(%)	175.4	602.6	86.6	-85.5	-23.1	94.7	-23.4	61.2	4.3	-42.4	3.3	-39.7
対アジア(10億円)	170.9	145.6	307.4	9.7	174.3	379.8	206.4	143.2	290.9	201.7	302.5	227.7
前年同月比(%)	7.6	15.8	12.9	-	-41.1	82.5	-1.9	-16.0	34.9	4.0	108.8	35.6
対中国(10億円)	-50.4	-82.2	31.3	-145.5	-45.1	52.9	-76.5	-63.1	-39.3	-91.1	-5.9	-87.3
前年同月比(%)	-55.8	-29.1	-	-45.7	-	-	7.9	2.1	14.7	83.8	-89.2	6.1
対ASEAN(10億円)	18.6	19.1	28.8	-12.9	6.8	49.7	47.9	24.3	68.6	47.2	52.7	39.4
前年同月比(%)	-42.7	-1.7	-7.4	-46.1	-83.4	4.8	-27.9	-62.4	14.6	-7.8	221.8	94.6
対米国(10億円)	131.5	119.3	188.3	122.2	144.6	174.1	133.6	137.5	157.7	117.3	132.3	173.9
前年同月比(%)	-21.6	-24.7	35.2	10.9	-9.6	-4.0	-24.5	12.2	-11.0	-25.0	-10.1	-16.6
対EU(10億円)	-9.8	-12.6	28.9	10.1	13.5	37.6	-11.1	-38.4	-12.2	-53.3	-103.6	-47.6
前年同月比(%)	-	-	-43.8	720.0	-46.6	50.7	-	3,051.9	-	-	-	-
[関西]輸出(10億円)	1,826.5	1,763.0	1,894.1	1,497.2	1,643.6	1,927.2	1,741.3	1,730.9	1,844.0	1,898.9	1,756.0	1,833.6
前年同月比(%)	-8.8	-7.1	-1.9	6.2	-1.0	1.5	-1.9	10.4	2.0	7.7	4.0	-3.0
対アジア(10億円)	1,159.7	1,126.6	1,190.3	941.8	996.8	1,191.5	1,126.7	1,087.2	1,159.7	1,232.0	1,146.8	1,168.8
前年同月比(%)	-6.7	-5.2	-3.3	8.6	-2.6	2.3	6.0	9.2	3.7	12.4	8.1	1.8
対中国(10億円)	443.6	435.9	487.1	360.4	350.5	466.3	425.5	432.5	432.2	451.1	430.6	420.6
前年同月比(%)	-4.4	-4.7	3.3	21.8	-7.0	1.9	5.5	13.3	0.3	9.3	1.1	-4.0
対ASEAN(10億円)	302.0	291.7	277.5	233.0	274.0	284.3	286.2	276.4	298.9	328.3	303.6	296.3
前年同月比(%)	-8.0	-7.3	-8.7	-8.1	-0.5	-9.1	2.5	-0.4	-0.5	9.8	13.7	2.6
対米国(10億円)	306.9	273.5	322.5	257.7	290.6	310.0	275.1	279.5	315.2	287.0	273.6	316.4
前年同月比(%)	-11.6	-16.0	13.4	8.5	5.1	-4.1	-13.4	5.9	-0.1	-5.5	-1.5	-5.9
対EU(10億円)	167.4	172.2	185.2	145.3	168.8	198.2	154.6	167.0	167.1	163.4	163.0	172.3
前年同月比(%)	-22.4	-12.2	-16.1	-2.4	-7.7	6.1	-22.6	5.8	-11.1	-13.5	-7.8	-15.9
実質輸出(日本銀行:2020=100)	101.4	99.2	102.6	101.4	97.1	102.8	97.8	100.7	101.0	103.3	105.9	106.9
前月比(%)	-2.3	-2.1	3.4	-0.7	-4.2	5.8	-4.9	3.0	0.3	2.2	2.5	1.0
[関西]輸入(10億円)	1,650.0	1,645.6	1,519.4	1,539.0	1,448.7	1,415.1	1,553.9	1,622.3	1,553.9	1,787.9	1,601.5	1,637.7
前年同月比(%)	-14.8	-12.5	-12.1	-9.4	3.0	-13.5	1.6	8.2	1.6	13.8	4.1	4.7
対アジア(10億円)	988.8	981.0	882.8	932.1	822.5	811.7	920.3	943.9	868.8	1,030.3	844.3	941.1
前年同月比(%)	-8.8	-7.7	-7.9	-7.9	13.1	-15.2	7.9	14.4	-3.8	14.2	-7.8	-4.0
対中国(10億円)	494.0	518.2	455.8	505.9	395.7	413.5	502.0	495.5	471.5	542.2	436.5	507.9
前年同月比(%)	-14.5	-9.6	-6.6	-10.3	13.1	-21.6	5.9	11.7	1.3	17.3	-9.2	-2.4
対ASEAN(10億円)	283.5	272.7	248.7	245.9	267.2	234.6	238.3	252.1	230.3	281.2	250.8	256.9
前年同月比(%)	-4.2	-7.7	-8.8	-11.4	14.1	-11.6	12.0	18.3	-4.3	13.4	0.1	-4.3
対米国(10億円)	175.3	154.2	134.1	135.5	146.0	135.9	141.6	142.0	157.5	169.7	141.4	142.4
前年同月比(%)	-2.1	-7.7	-7.5	6.3	25.3	-4.1	0.5	0.4	13.9	15.2	8.2	11.5
対EU(10億円)	177.2	184.8	156.3	135.2	155.3	160.7	165.7	205.4	179.3	216.7	266.6	219.9
前年同月比(%)	3.5	4.1	-7.7	-8.5	-1.4	-0.8	-0.2	29.2	0.8	26.1	51.0	31.6
実質輸入(日本銀行:2020=100)	102.0	96.7	97.4	90.9	94.8	91.2	91.6	96.1	99.9	99.9	105.8	104.3
前月比(%)	3.2	-5.2	0.7	-7.2	4.3	-3.8	0.4	4.9	4.0	0.0	5.9	-1.5
原油及び粗油(10億円)	30.0	69.2	84.5	60.0	60.3	39.1	52.1	59.7	69.4	61.0	80.1	56.7
前年同月比(%)	-78.7	-48.0	-30.1	-17.8	-27.7	-54.3	-20.1	-16.2	34.4	-19.3	35.8	56.3
原油及び粗油(1000KL)	376.2	797.1	1,014.4	771.7	776.7	499.3	643.0	684.4	805.1	694.7	964.6	763.4
前年同月比(%)	-74.1	-44.1	-31.0	-22.6	-33.0	-58.1	-31.6	-28.7	19.7	-33.5	21.1	60.5
原油価格(円/KL)	79,632.5	86,852.4	83,307.4	77,725.0	77,640.4	78,347.6	80,986.0	87,248.7	86,158.2	87,838.3	83,071.7	74,225.2
前年同月比(%)	-17.9	-7.0	1.3	6.1	8.0	9.1	16.9	17.6	12.2	21.3	12.1	-2.6
為替レート(月中平均:円/ドル)	149.5	149.8	144.1	146.6	149.4	149.6	153.4	156.1	157.8	158.1	146.2	143.4
前月比(%)	1.3	0.2	-3.8	1.7	1.9	0.1	2.5	1.8	1.1	0.2	-7.5	-2.0
[関西国際空港]外国人入国者数(人)	655,571	663,795	721,677	700,402	715,170	772,640	772,860	798,812	812,689	831,035	762,632	738,390
日本人出国者数(人)	162,984	185,083	177,085	150,652	183,012	242,657	158,125	175,678	171,878	193,173	276,060	228,387
中国モニター												
購買担当者景況指数(PMI): 製造業(%)	49.5	49.4	49.0	49.2	49.1	50.8	50.4	49.5	49.5	49.4	49.1	49.8
非製造業(%)	50.6	50.2	50.4	50.7	51.4	53.0	51.2	51.1	50.5	50.2	50.3	50.0
輸出額(100万ドル)	274,213	291,935	303,618	306,506	219,520	278,475	291,558	301,944	307,606	300,508	308,647	303,712
輸入額(100万ドル)	218,213	223,539	228,278	222,423	180,858	221,054	219,938	219,784	208,801	215,786	217,626	222,002
貿易総額(100万ドル)	492,426	515,474	531,896	528,929	400,378	499,530	511,496	521,728	516,407	516,295	526,273	525,714
貿易収支(100万ドル)	55,999	68,395	75,340	84,084	38,662	57,421	71,621	82,160	98,805	84,722	91,022	81,711
工業生産: 前月比(%)	0.42	0.87	0.52	0.78	0.16	-0.14	0.90	0.25	0.39	0.35	0.32	0.59
前年同月比(%)	4.60	6.60	6.80	7.00	7.00	4.50	6.70	5.60	5.30	5.10	4.50	5.40
名目社会消費品小売総額: 前年同月比(%)	7.6	10.1	7.4	NA	5.5	3.1	2.3	3.7	2.0	2.7	2.1	3.2
消費者物価指数: 前年同月比(%)	-0.2	-0.5	-0.3	-0.8	0.7	0.1	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6	0.4
コア消費者物価指数: 前年同月比(%)	0.6	0.6	0.6	0.4	1.2	0.6	0.7	0.6	0.6	0.4	0.3	0.1
生産者物価指数: 前年同月比(%)	-2.6	-3.0	-2.7	-2.5	-2.7	-2.8	-2.5	-1.4	-0.8	-0.8	-1.8	-2.8



【Release Calendar】

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
<b>30-Sep</b> 全国鉱工業指数 (8月:速報) 商業動態統計 (8月:速報) 建築着工統計調査 (8月) 全国企業短期経済観測 調査 (9月) 中国 PMI (9月)	<b>1-Oct</b> 労働力調査 (8月) 一般職業紹介状況 (8月) 近畿圏貿易概況 (7月:確報) 近畿圏貿易概況 (8月:確・速報)	<b>2-Oct</b> 消費動向調査 (9月)	<b>3-Oct</b>	<b>4-Oct</b>
<b>7-Oct</b> 百貨店・スーパー販売 状況(8月:速報)	<b>8-Oct</b> 毎月勤労統計調査 (8月:速報) 景気ウォッチャー調査 (9月)	<b>9-Oct</b>	<b>10-Oct</b>	<b>11-Oct</b> 中国 CPI (9月)**
<b>14-Oct</b> <b>スポーツの日</b> 中国貿易統計 (9月)	<b>15-Oct</b> 全国鉱工業指数 (8月:確報) 商業動態統計 (8月:確報) 公共工事前払保証額 統計(9月) 出入国管理統計 (9月:速報)	<b>16-Oct</b>	<b>17-Oct</b> 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月:速報) 近畿圏貿易概況 (9月:速報) 全国貿易統計 (9月:速報)	<b>18-Oct</b> 全国 CPI (9月) 建設総合統計 (8月) 中国工業生産 (9月) 中国消費小売総額 (9月) 中国固定資産投資 (9月) 中国不動産市場 (9月) 中国 GDP (7-9月期)
<b>21-Oct</b> マンション市場動向 (9月) 実質輸出入 (9月)	<b>22-Oct</b>	<b>23-Oct</b>	<b>24-Oct</b> 毎月勤労統計調査 (8月:確報)	<b>25-Oct</b> 百貨店免税売上 (9月) 出入国管理統計 (8月)
<b>28-Oct</b> 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月:確報)	<b>29-Oct</b> 労働力調査 (9月) 一般職業紹介状況 (9月)	<b>30-Oct</b> 消費動向調査 (10月) 全国貿易統計 (8月:確報) 全国貿易統計 (9月:確・速報)	<b>31-Oct</b> 全国鉱工業指数 (9月:速報) 商業動態統計 (9月:速報) 建築着工統計調査 (9月) 中国 PMI (10月)	<b>1-Nov</b> 近畿圏貿易概況 (8月:確報)* 近畿圏貿易概況 (9月:確・速報)*
<b>4-Nov</b> <b>振替休日</b>	<b>5-Nov</b>	<b>6-Nov</b>	<b>7-Nov</b> 毎月勤労統計調査 (9月:速報) 中国貿易統計 (10月)	<b>8-Nov</b> 百貨店・スーパー販売 状況(9月:速報) 中国 CPI (11月)**

\*印は発表予定日が未定。

\*\*印は公表日が週末。